第２章　現況分析

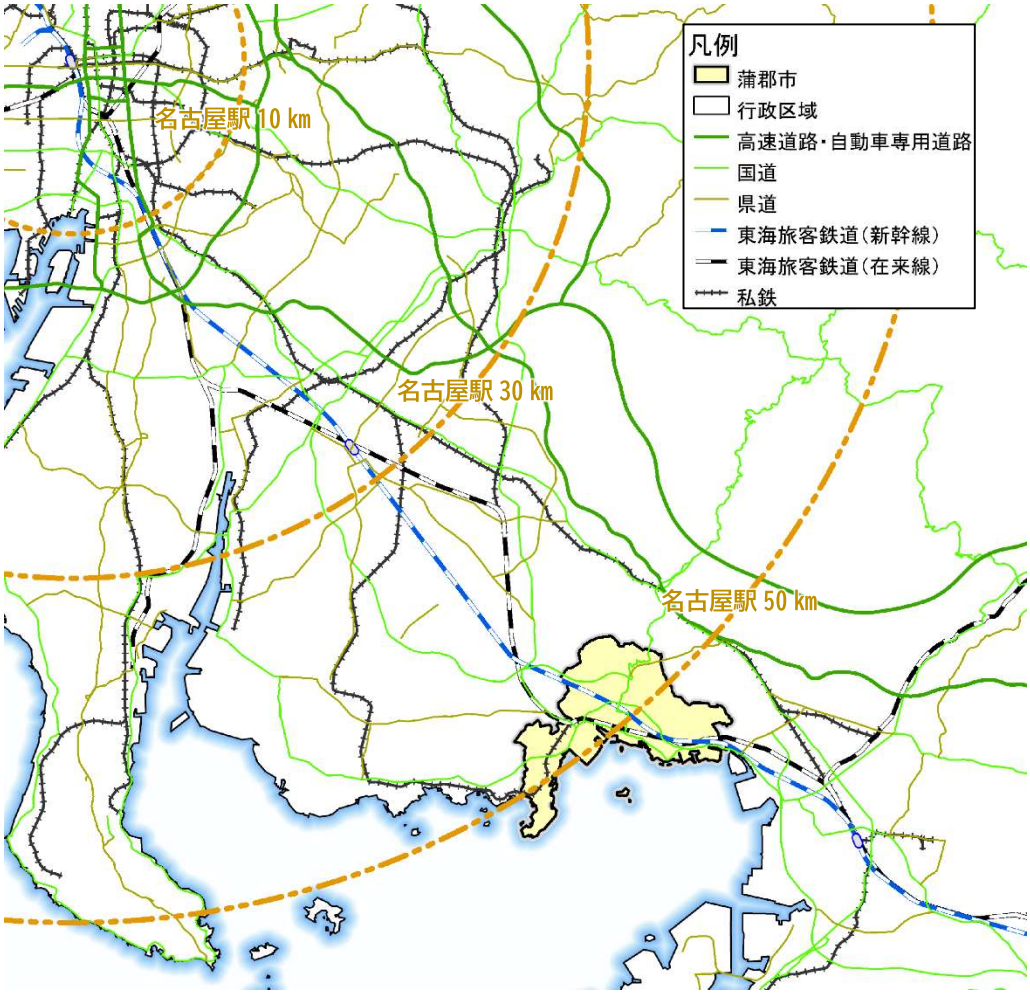
２－１　市の概要

（１）　位置

本市は愛知県の南東部、知多半島と渥美半島に囲まれた三河湾の奥に位置しています。名古屋市の中心部から約 50 ㎞、東海道本線により名古屋駅までは約 40 分と近い位置にあります。東海道新幹線駅の豊橋駅とは約 10 分と広域的な公共交通の利便性が高い都市です。また、名鉄蒲郡線により西尾市とも連絡しています。

鉄道に加えて、国道 23 号バイパスなどの幹線道路で諸都市と結ばれ、東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジへも容易にアクセスが可能です。

■蒲郡市の位置図

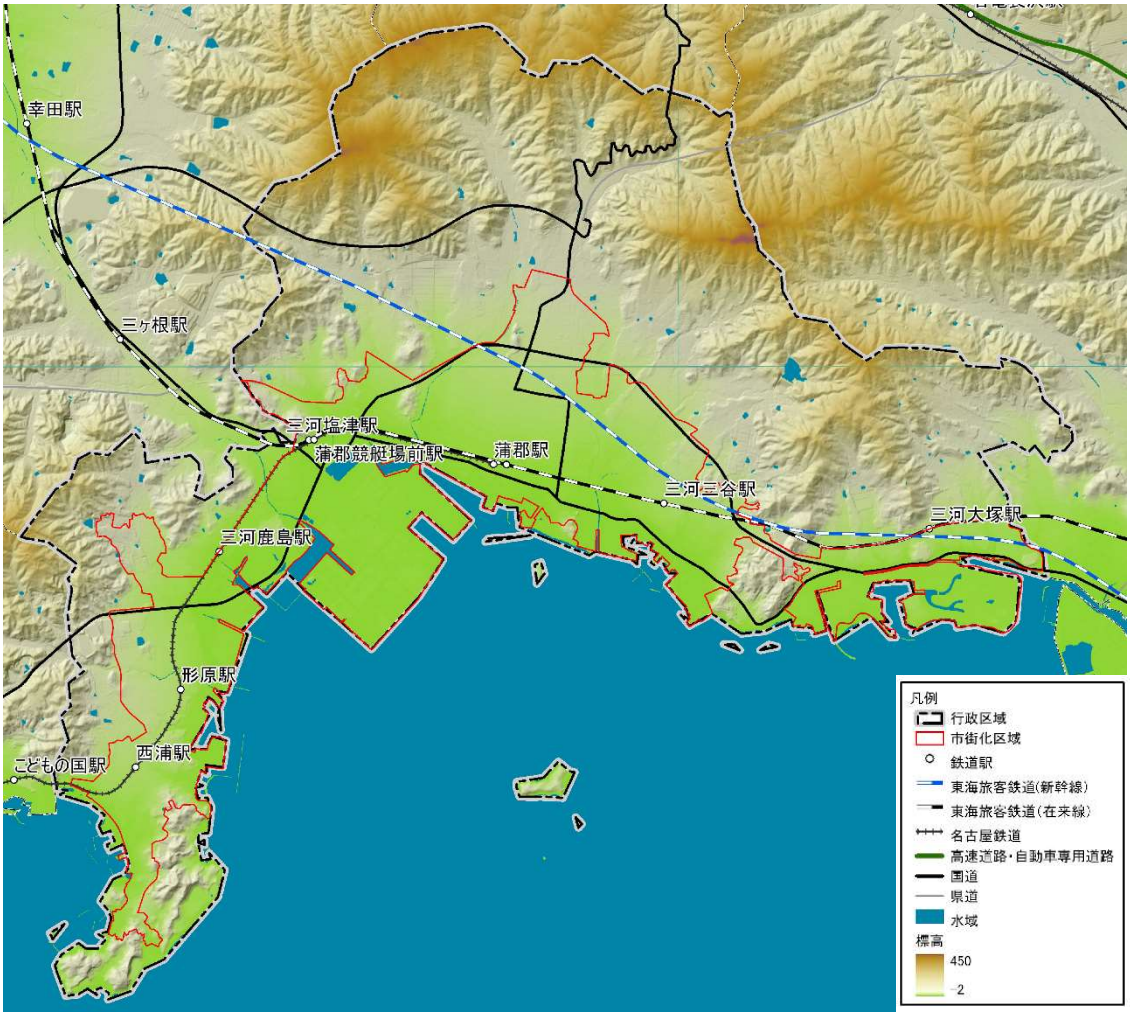


（２）　地形

本市は、北と東西の三方を山と丘陵部に囲まれ、南側は三河湾に面しており、三河湾国定公園の中心地です。

海・山の自然が豊かで、三河湾沿岸に快適に暮らすことができる市街地を形成しています。

■蒲郡市の地形図



２－２　人口・世帯

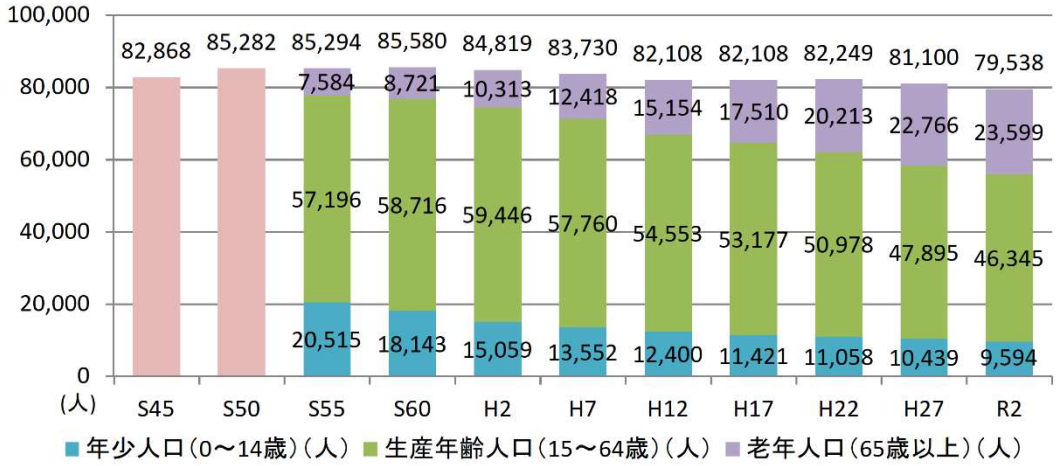
（１）　人口の動向

①　人口の推移

本市の人口は、昭和 60 年ごろをピークとし、それ以降は減少しています。

年齢区分別の人口を見ると、年少人口や生産年齢人口は減少していますが、老年人口は増加しています。現在の全人口に対する老年人口の割合は 29.7%で、4 人に 1 人以上が 65 歳以上となっています。

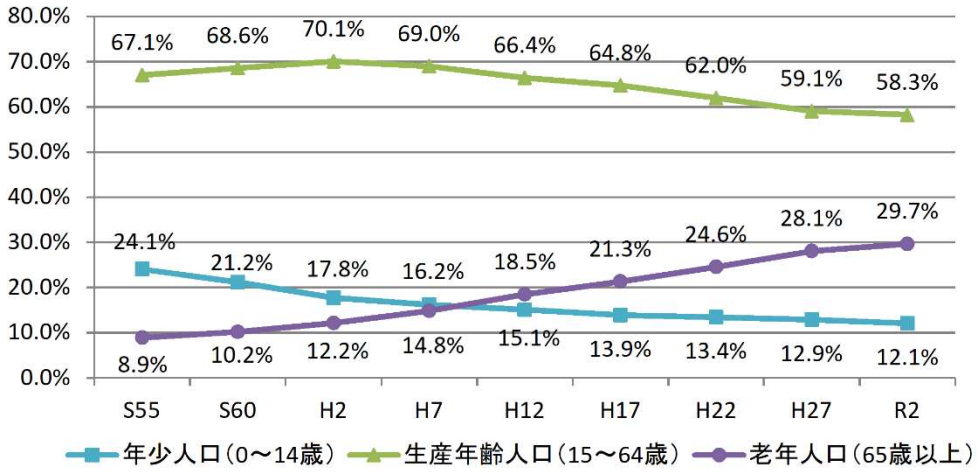
■人口の推移



※昭和 50 年以前は、年齢 3 区分別のデータが公表されていないため、総数のみ表示

資料：国勢調査

■年齢 3 区分別の構成比の推移



資料：国勢調査

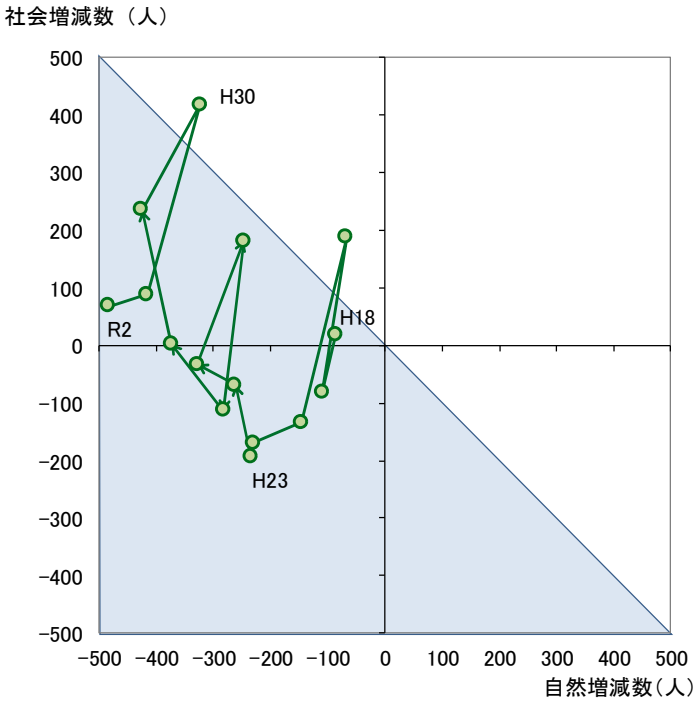
②　人口動態（自然増減・社会増減）

１）蒲郡市の人口及び世帯の動態

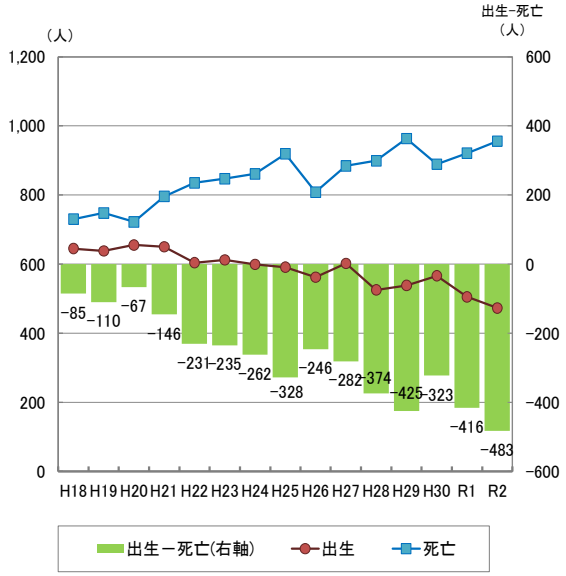
現行の都市計画マスタープラン策定時以降の人口動態を見ると、自然増減は、自然減の状況が継続しています。一方で、社会増減は、プラス・マイナスを繰り返していますが、平成 28 年度以降、転入超過の社会増の状況が継続しています。

■人口動態

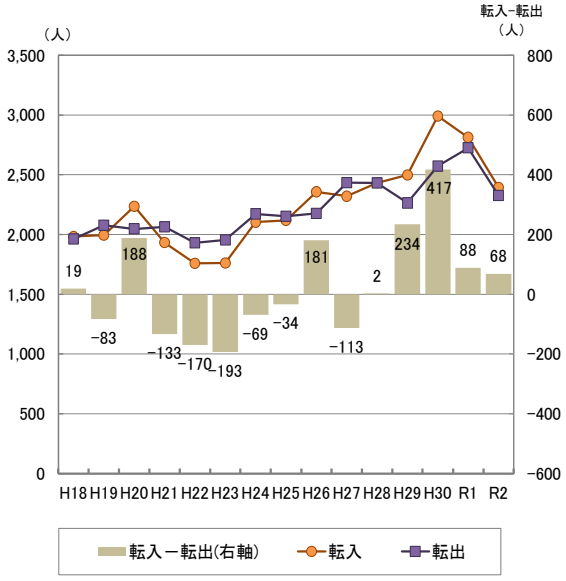
○人口動態



○自然増減（出生−死亡）



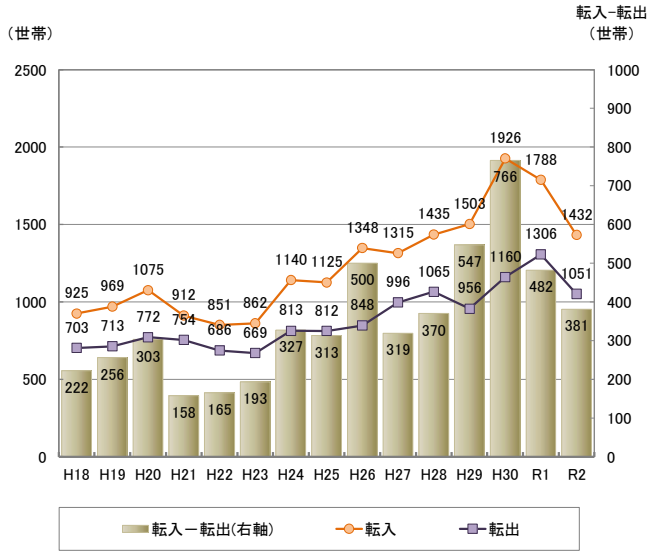
○社会増減（転入−転出）



資料：住民基本台帳（各年度合計値）

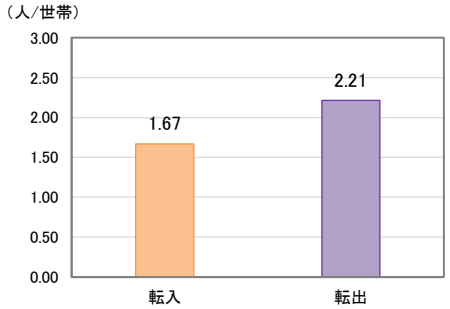
世帯の転出入を見ると、転出数より転入数が多い転入超過の状態が続いていますが、その差は平成 30 年以降小さくなっており、また、1 世帯当たりの人員は転出世帯の方が多くなっています。

■世帯の転出入の推移



資料：住民基本台帳（各年度合計値）

■転出入別の 1 世帯当たり人員（R2 年）

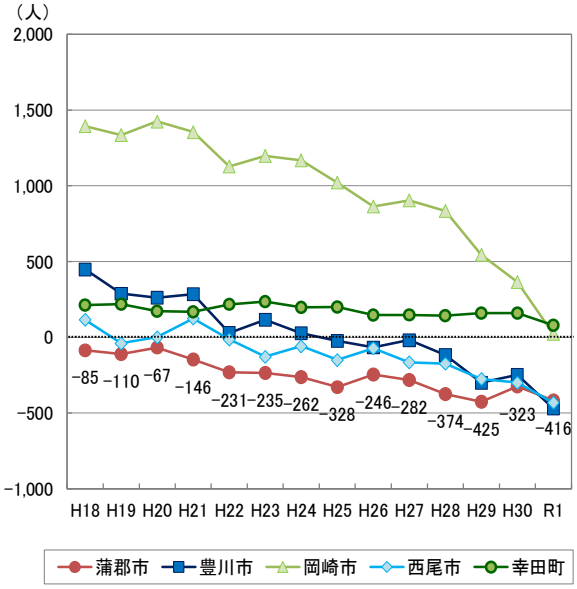


資料：住民基本台帳

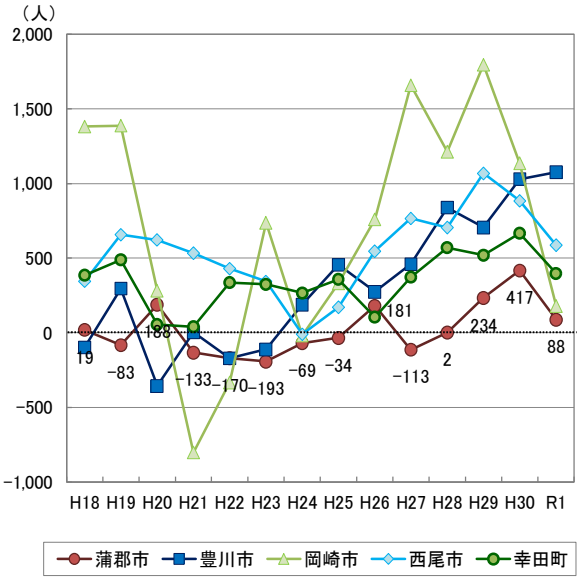
２）人口動態の他都市との比較

蒲郡市が自然減の状況が継続する中で、岡崎市や幸田町は自然増となっています。社会増減については、蒲郡市が社会増の状況の中、周辺市町でも社会増が継続しています。

■自然増減（出生-死亡）



■社会増減（転入-転出）



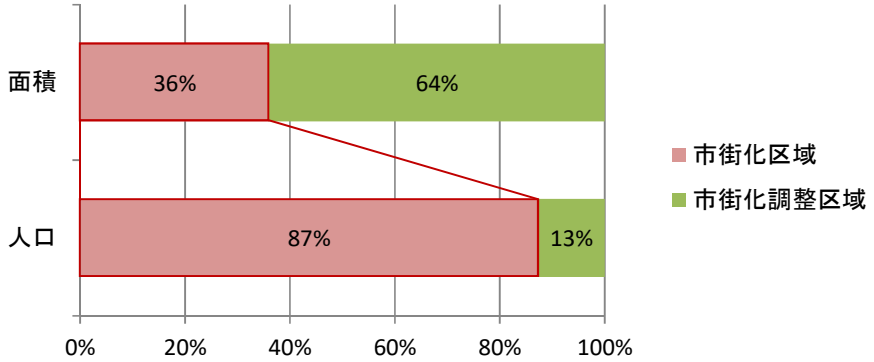
資料：【蒲郡市】住民基本台帳（各年度合計値）、【他市】地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）

（２）　人口分布

①　区域区分別人口

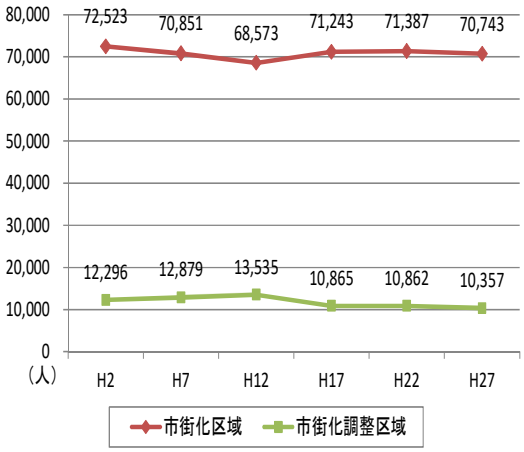
本市では、36%を占める市街化区域の中に、87%の人が居住しています。区域区分別の人口の推移を見ると、市街化区域、市街化調整区域ともに人口が減少傾向となっています。世帯数は、短期的に見て市街化調整区域では横ばいですが、市街化区域で増加しています。

■区域区分別面積と人口の割合

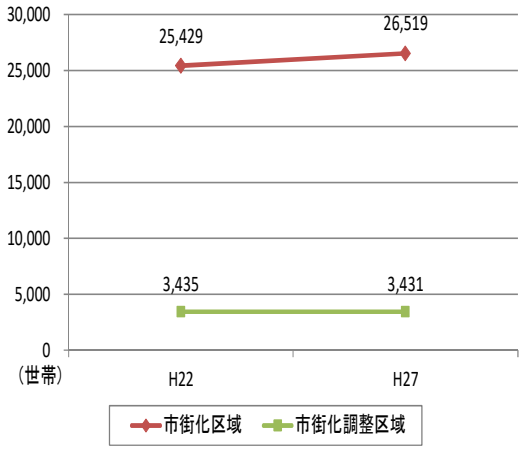


資料：平成 28 年度都市計画基礎調査

■区域区分別の人口の推移



■区域区分別世帯数の推移



資料：都市計画基礎調査

②　用途地域別の人口密度

ラグーナ蒲郡地区計画区域と浜町の工業専用地域を除く市街化区域の人口密度が、概ね既成市街地の基準値である 40 人/ha と同等となっています。

■市街化区域の用途地域別人口密度

用途地域	市街化区域全体			ラグーナ地区を除く		
	面積（ha）	人口（人）	人口密度（人/ha）	面積（ha）	人口（人）	人口密度（人/ha）
第1種低層住居専用地域	50	1,860	37	50	1,860	37
第1種中高層住居専用地域	86	4,825	56	86	4,825	56
第1種住居地域	548	23,689	43	548	23,689	43
第2種住居地域	80	1,413	18	16	600	37
近隣商業地域	129	5,798	45	129	5,798	45
商業地域	114	3,193	28	61	3,038	50
準工業地域	726	28,372	39	709	28,372	40
工業地域	162	1,592	10	162	1,592	10
工業専用地域	156	1	0	156	1	0
総計	2,051	70,743	34	1,918	69,775	36
総計（工業専用地域除く）	1,895	70,742	37	1,762	69,774	40

※下線の数値は、ラグーナ蒲郡地区計画区域を除くことにより変更があるもの

資料：平成 28 年度都市計画基礎調査

【参考：人口密度の目安：都市計画運用指針（市街化区域の規模）】

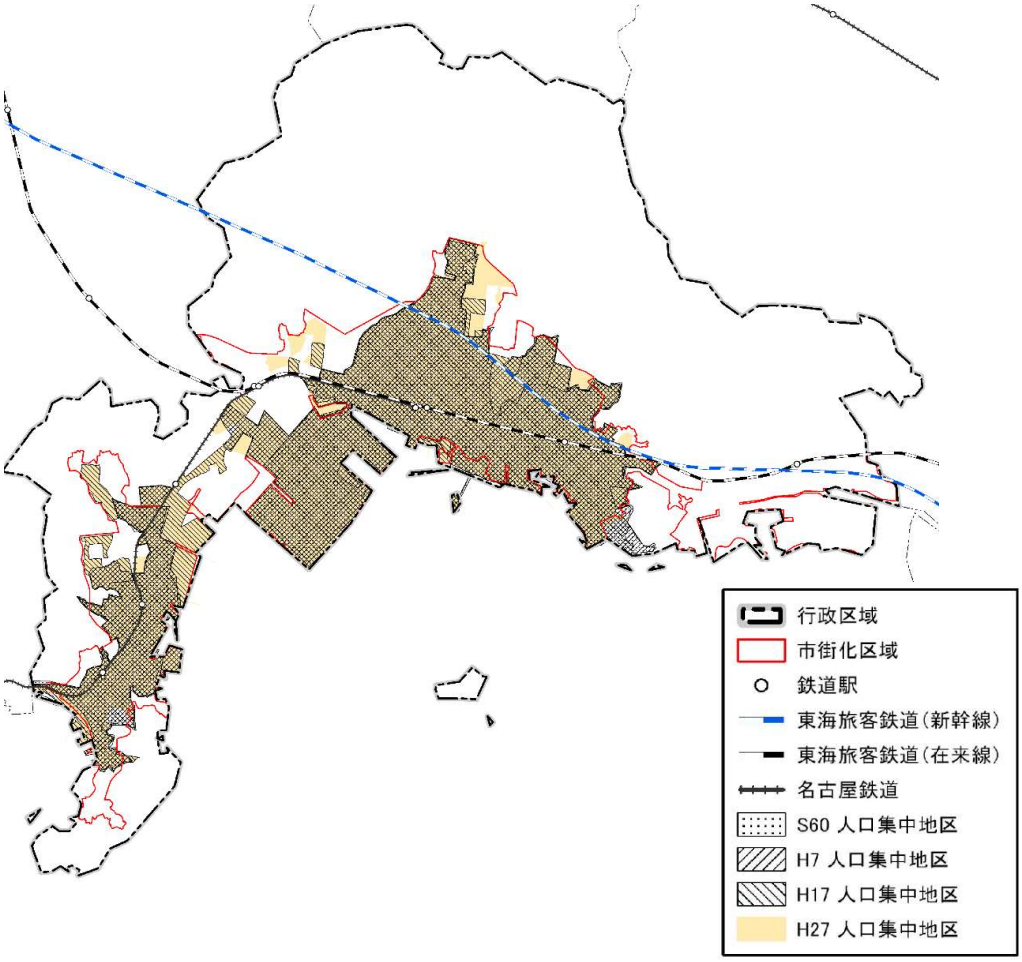
①　住宅用地の人口密度については、土地の高度利用を図るべき区域にあっては、1ha 当たり 100 人以上、その他の区域にあっては 1ha 当たり 80 人以上を目標とし、土地利用密度の低い地域であっても 1ha 当たり 60 人以上とすることを基本とすることが望ましい。

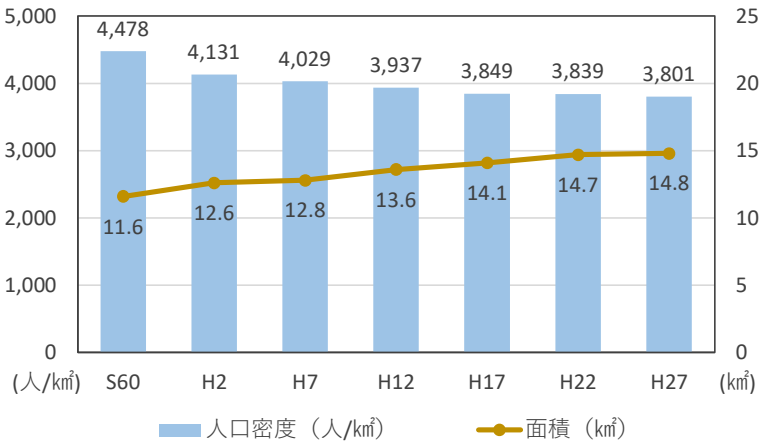
②　既に市街化している区域において、地形その他の地理的条件や都市基盤施設の配置・形状等からみて現状より多くの住宅を建築することが困難であること等の理由から、①に示す人口密度の参考数値を適用しがたい場合には、現在の市街地の地区毎の人口密度を把握のうえ、市街地の具体的な整備の方向を示したうえで、これを踏まえた将来の地区毎の人口密度目標を設定するなどの方策も考えられる。ただし、この場合でも規則に定める既成市街地の基準である 1ha 当たり 40 人を下回らないこととすべきである。

③　人口集中地区の変遷

本市では、人口集中地区の面積は拡大している一方で、人口密度は減少傾向です。

■人口集中地区の変遷





資料：国勢調査

※人口集中地区：

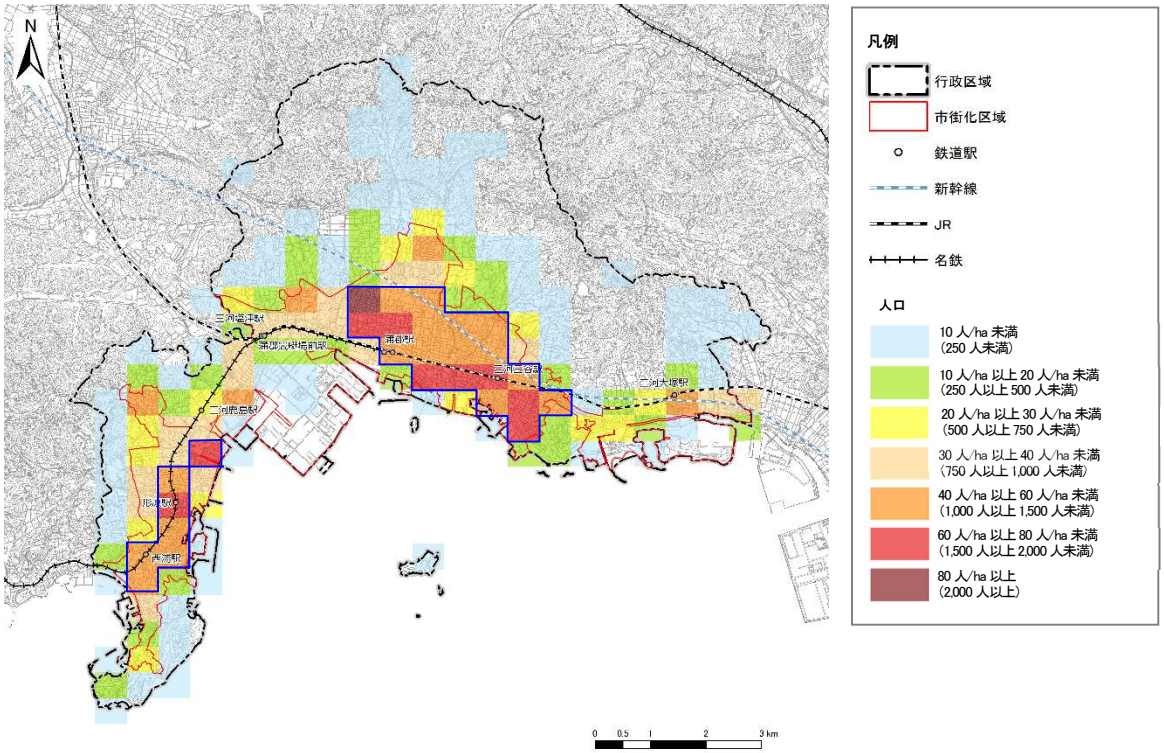
国勢調査において、原則として人口密度が 4,000（人/km2）以上の基本単位区などが市町村の境界内で隣接し、それらの人口が 5,000 人以上を有する地域。

④　総人口の分布（500mメッシュ）

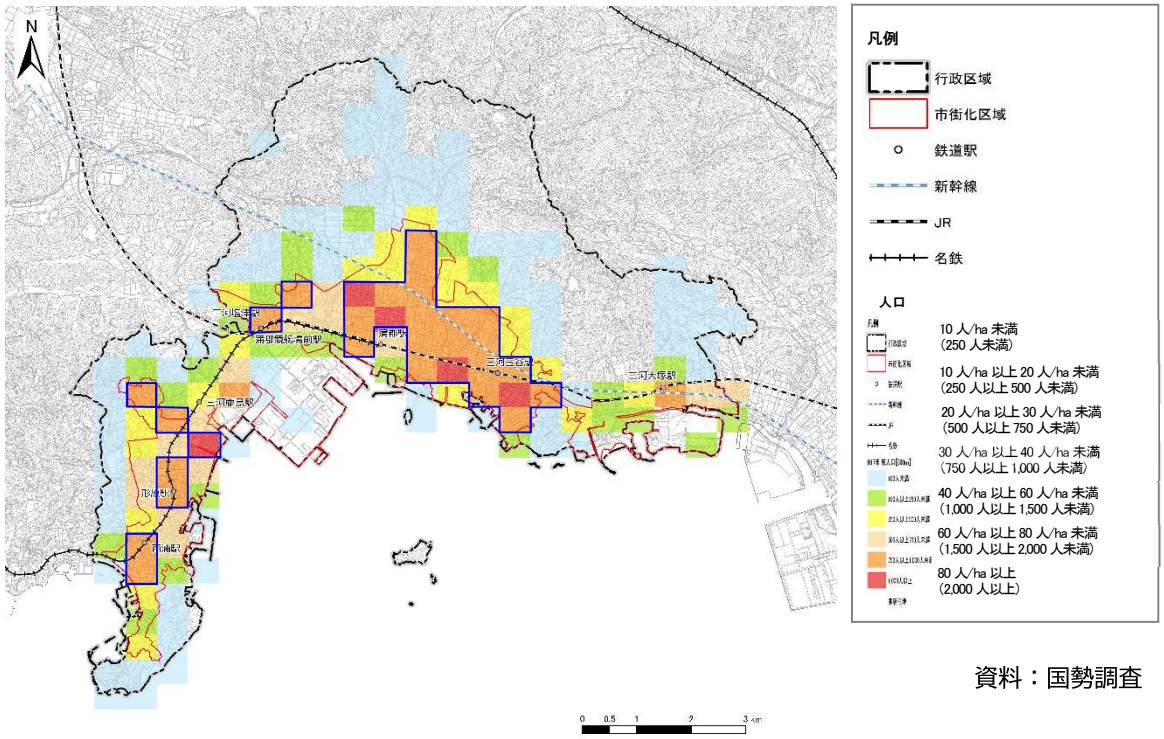
平成 17 年と平成 27 年の人口分布を見ると、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅から西浦駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■総人口の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年人口



○平成 27 年人口

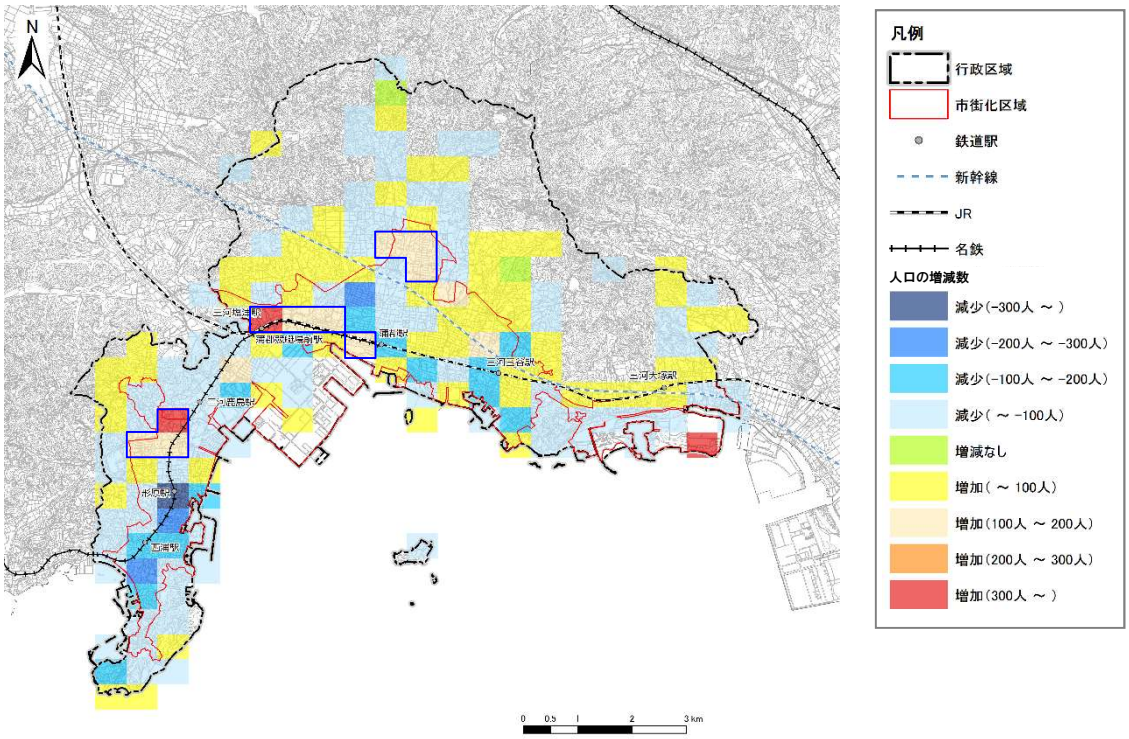


資料：国勢調査

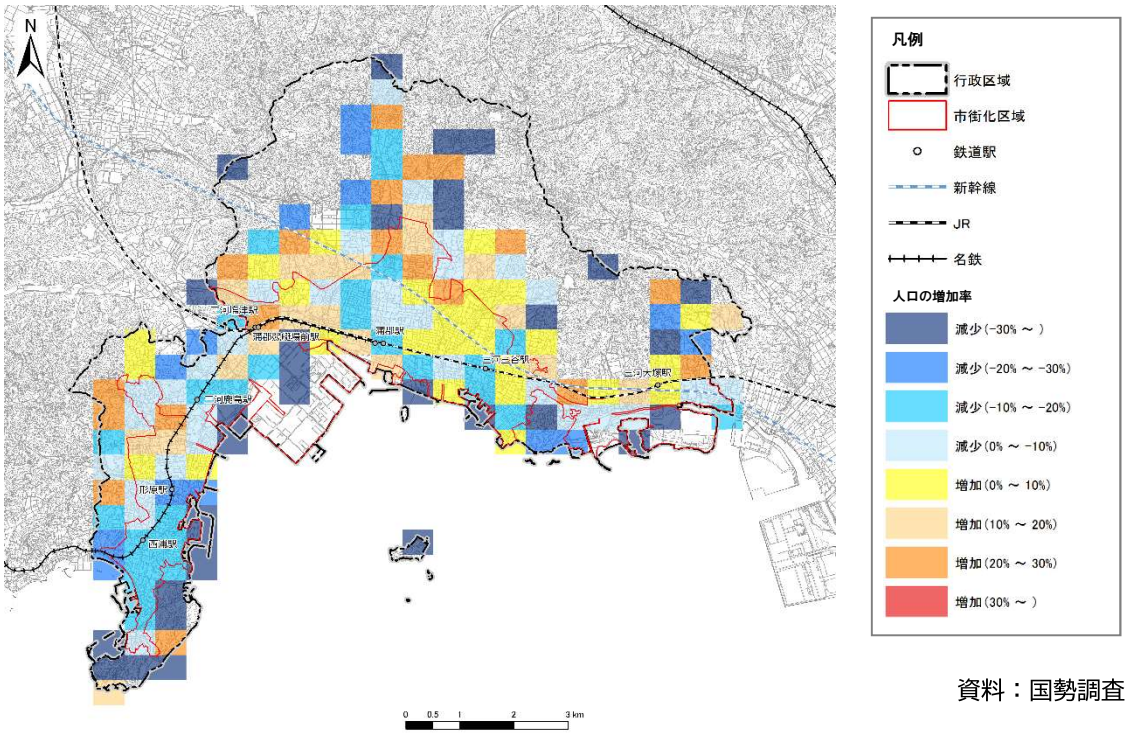
人口の増減については、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺では増加しているのに対し、その他の駅周辺では増減なし、もしくは減少しています。また、市西部をはじめ、広い地域で人口が減少する中、駅から一定距離のある、蒲郡中部土地区画整理事業施行区域周辺などにおいて人口が増加している地域も分布しています。

■総人口の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年−平成 17 年）



○増加率（（平成 27 年÷平成 17 年）−1）



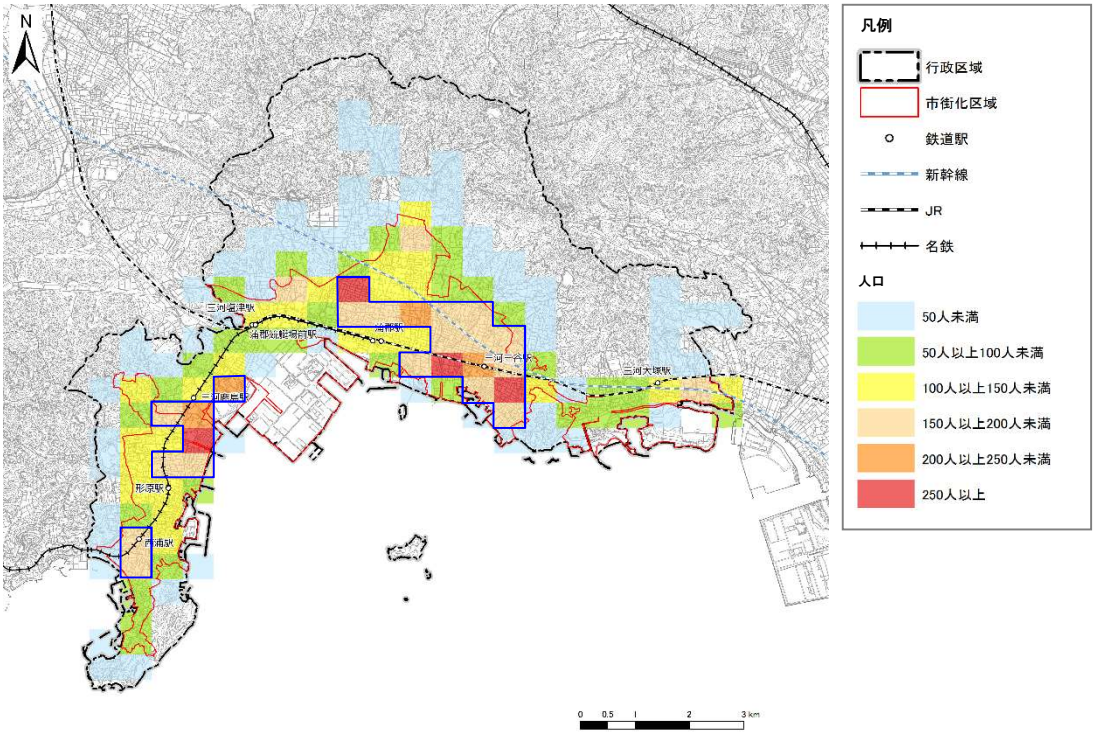
資料：国勢調査

⑤　年少人口（14 歳以下）の分布（500m メッシュ）

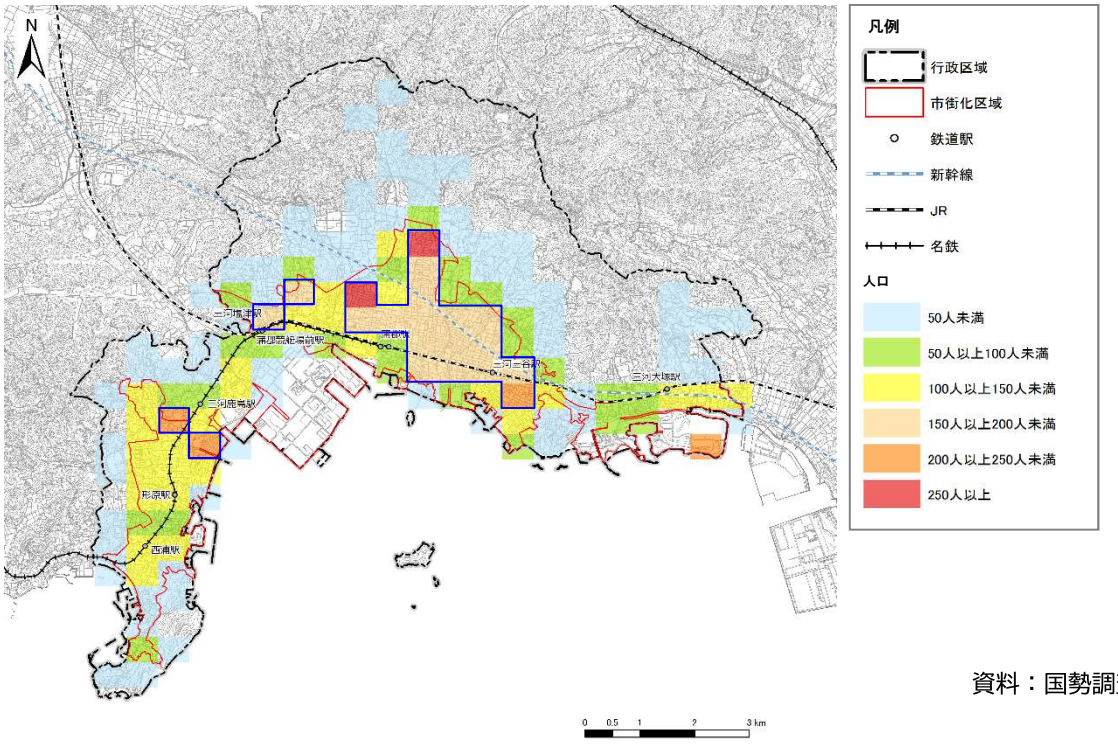
平成 17 年と平成 27 年の年少人口の分布を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺から三河三谷駅周辺、形原駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■年少人口の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年人口



○平成 27 年人口

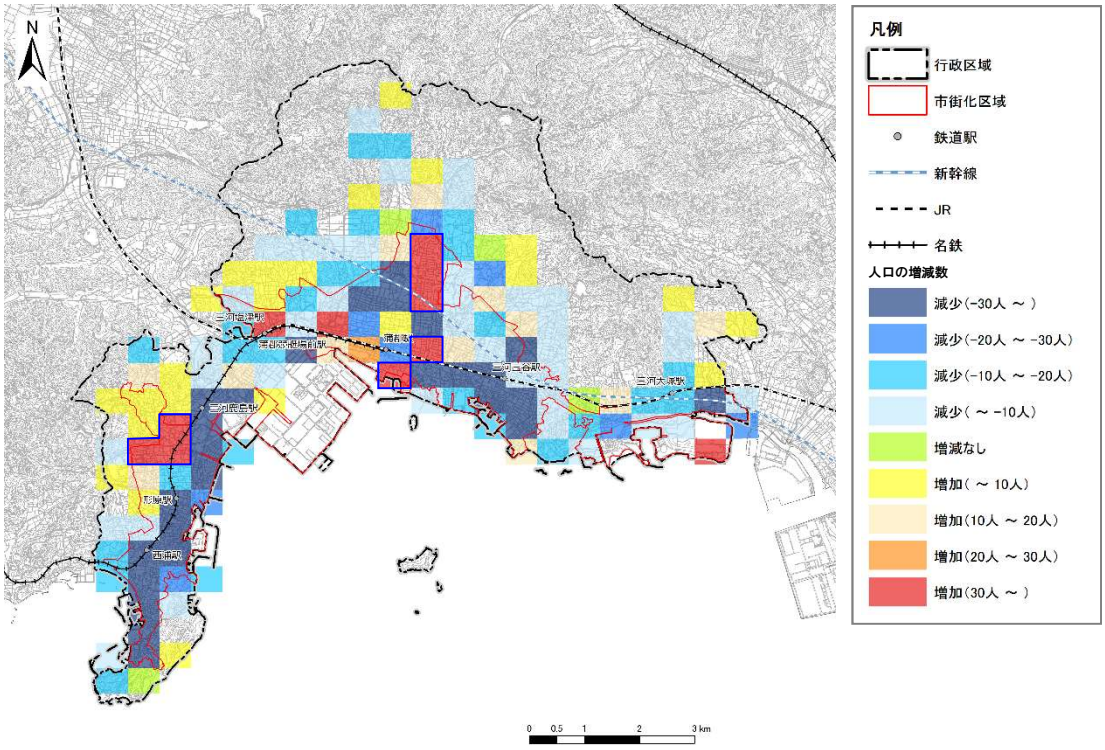


資料：国勢調査

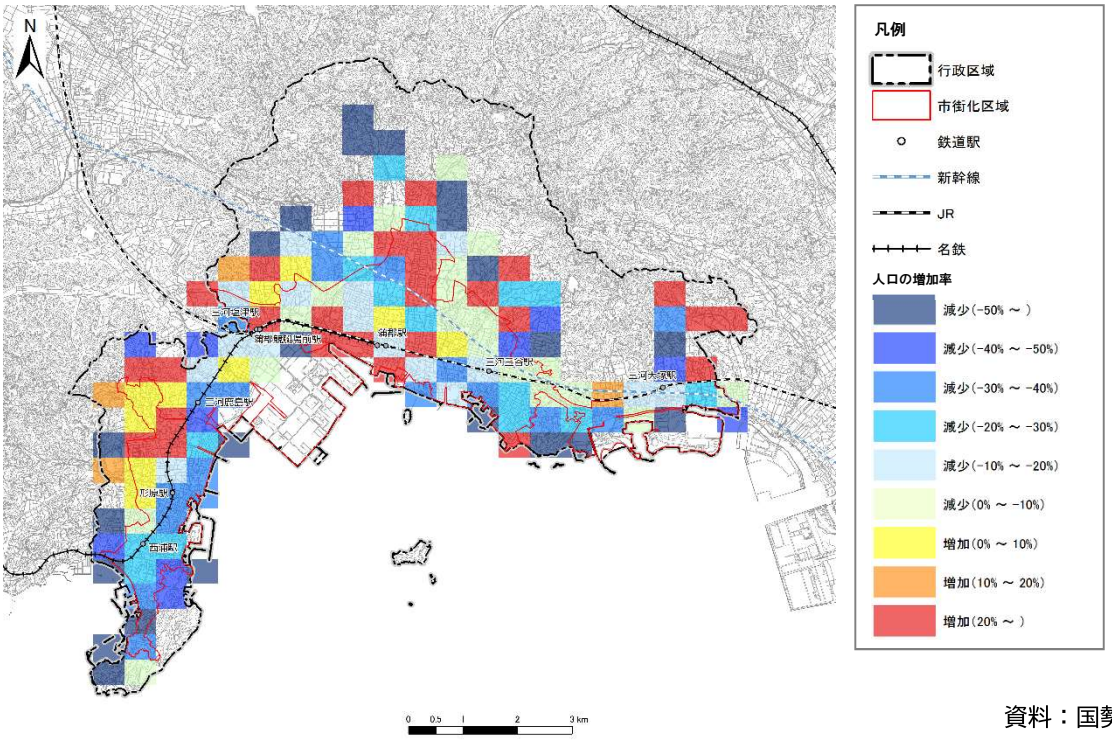
人口の増減については、市西部や三河三谷駅周辺などの総人口が集積する地域をはじめ、市街化区域内で年少人口が減少する地域が多い状況です。一方で、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺や蒲郡駅周辺、土地区画整理事業施行区域などにおいて人口が増加しています。

■年少人口の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年−平成 17 年）



○増加率（（平成 27 年÷平成 17 年）−1）



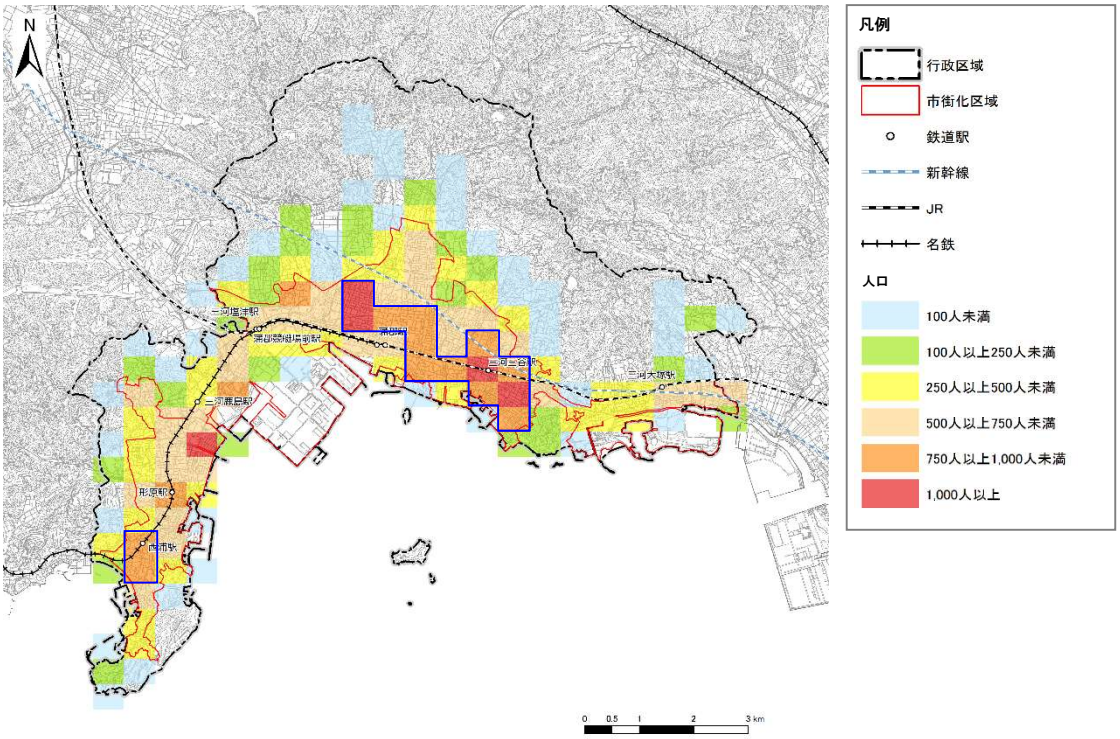
資料：国勢調査

⑥　生産年齢人口（15 歳～64 歳）の分布（500ｍメッシュ）

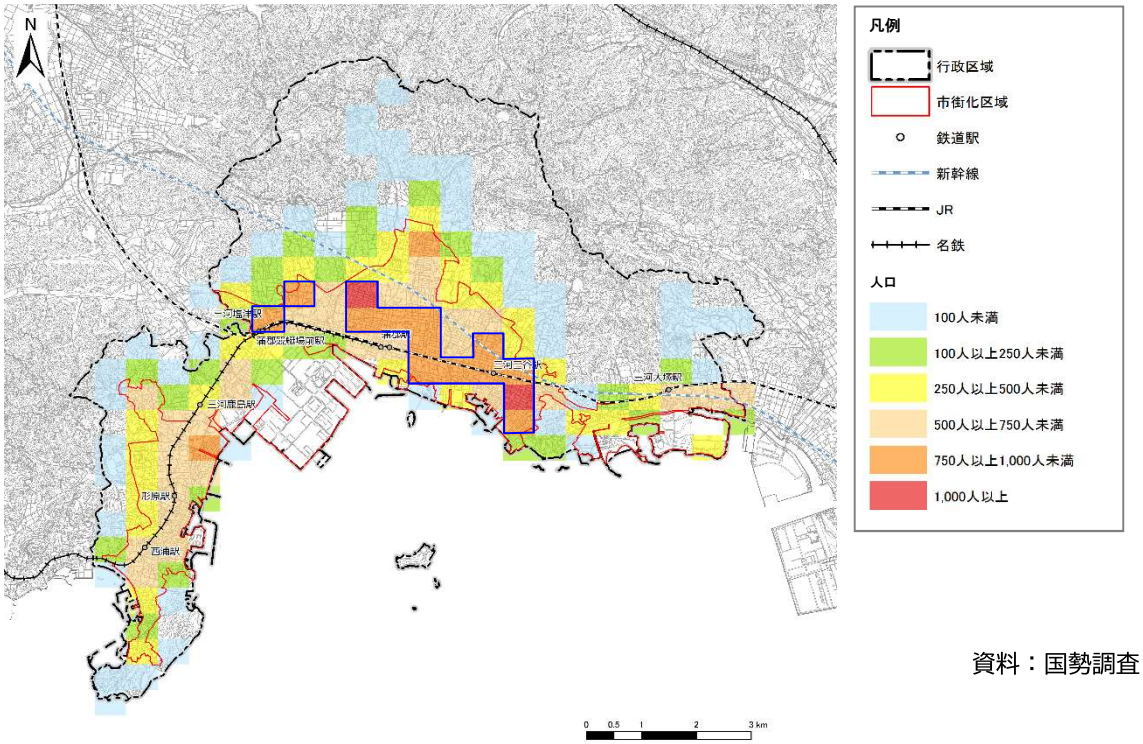
平成 17 年と平成 27 年の生産年齢人口の分布を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺から三河三谷駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■生産年齢人口の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年人口



○平成 27 年人口

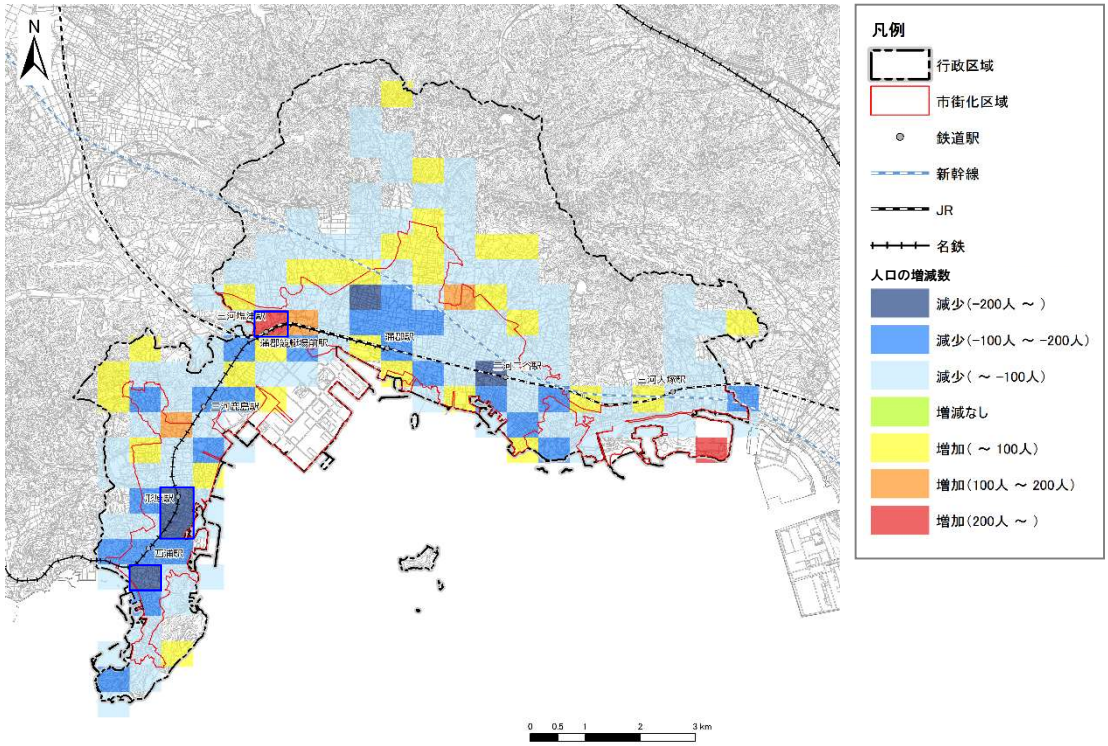


資料：国勢調査

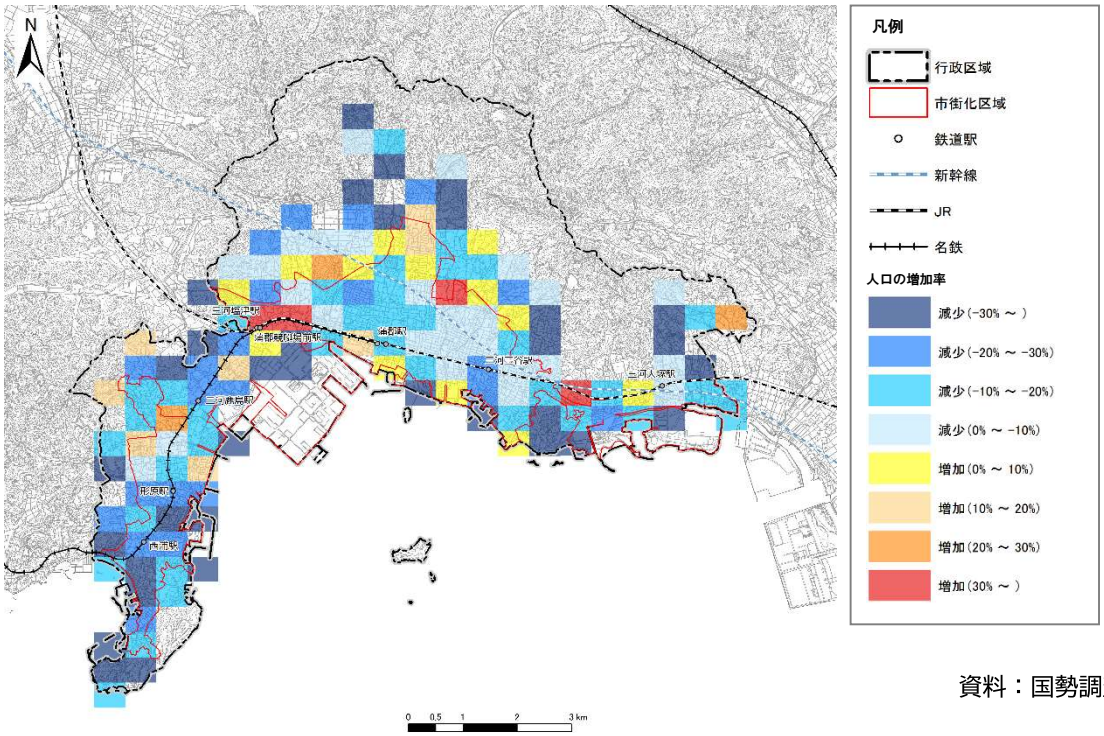
人口の増減については、三河塩津駅周辺などで増加しているのに対し、多くの駅周辺などで減少しています。

■生産年齢人口の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年−平成 17 年）



○増加率（（平成 27 年÷平成 17 年）−1）



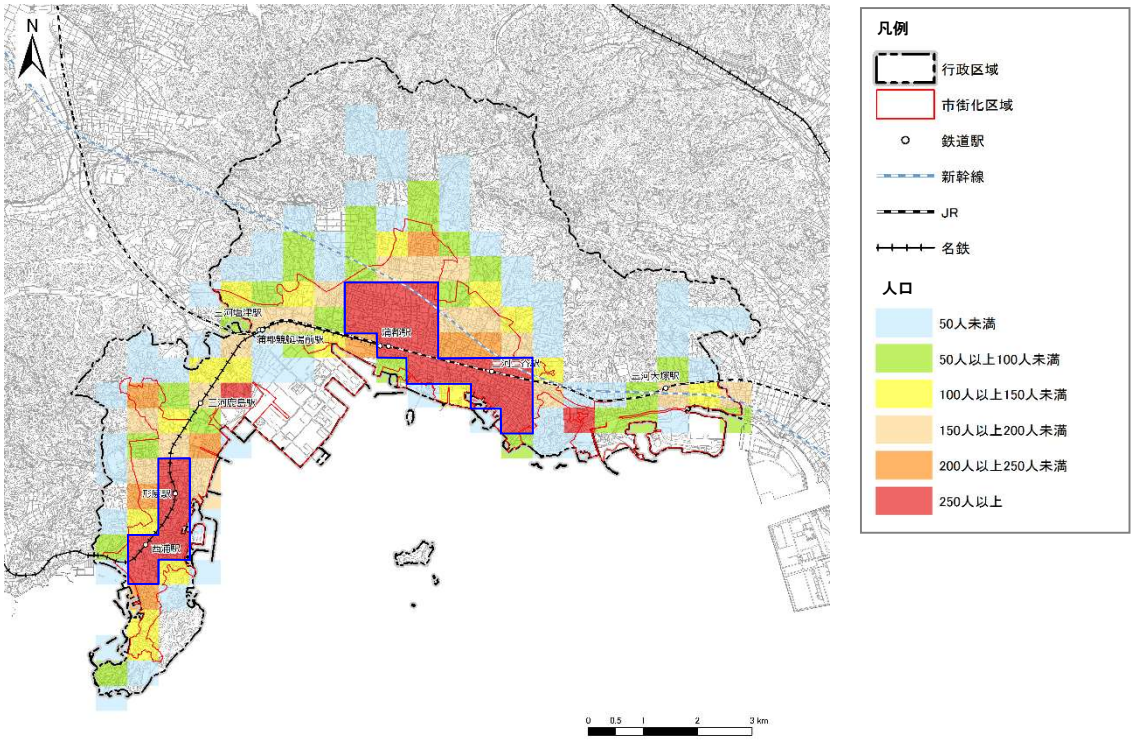
資料：国勢調査

⑦　高齢者（65 歳以上）の分布（500m メッシュ）

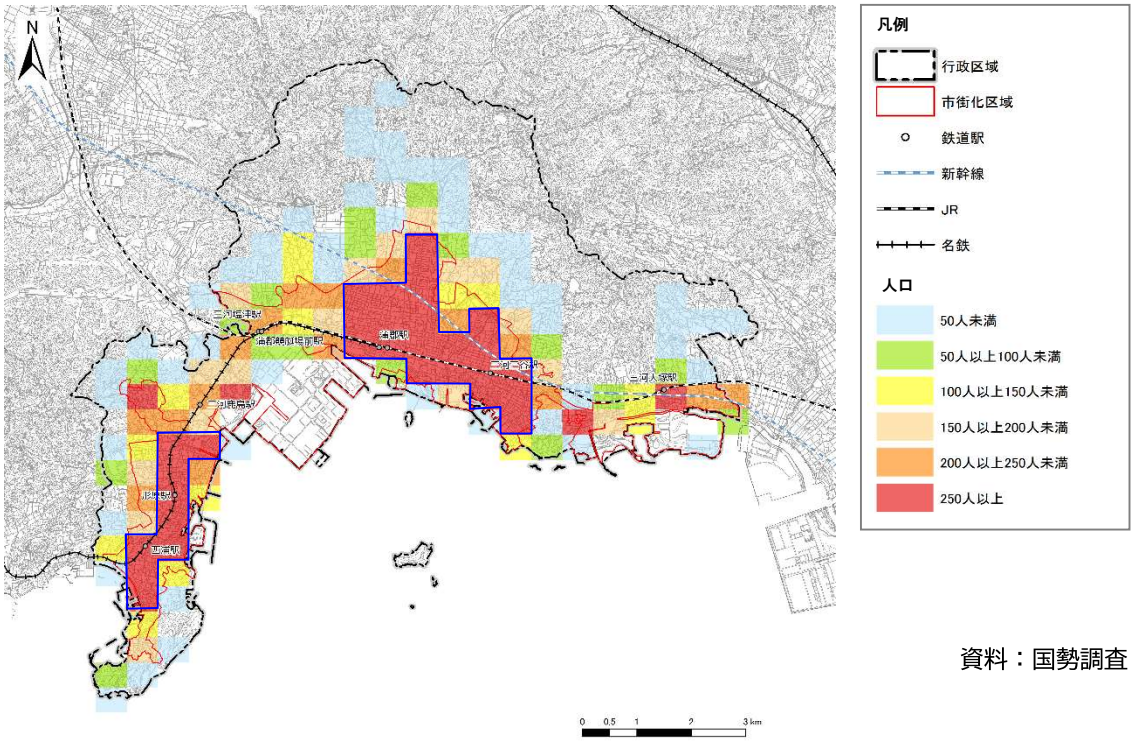
平成 17 年と平成 27 年の高齢者の分布を見ると、総人口と同様に、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅から西浦駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■高齢者（65 歳以上）の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年人口



○平成 27 年人口

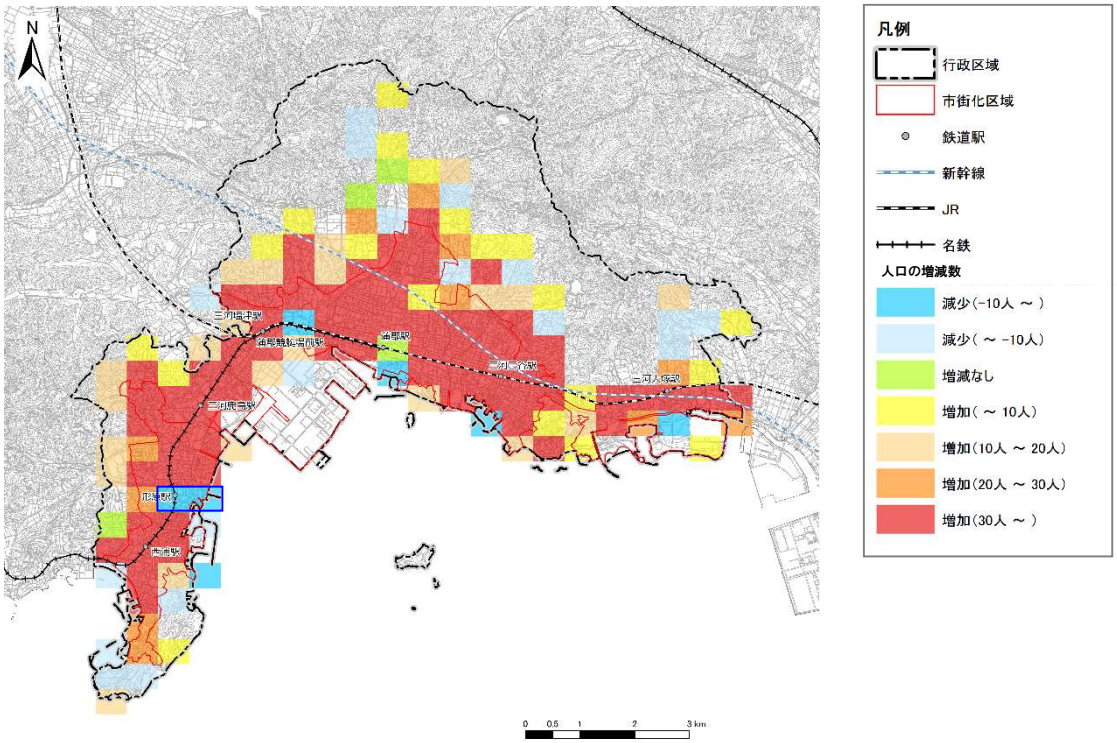


資料：国勢調査

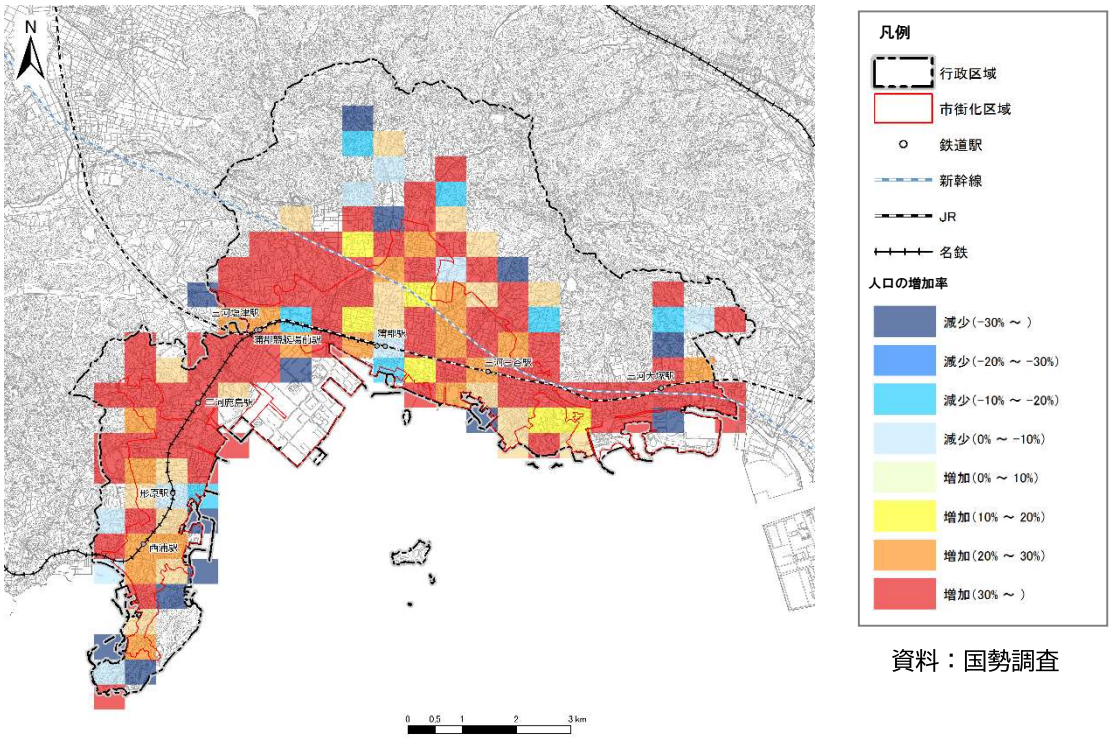
人口の増減については、概ね市全体にわたり増加しています。一方で、形原駅周辺では高齢者が減少しており、これまでの整理結果から、全ての世代で人口が減少しています。

■高齢者（65 歳以上）の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年−平成 17 年）



○増加率（（平成 27 年÷平成 17 年）−1）



資料：国勢調査

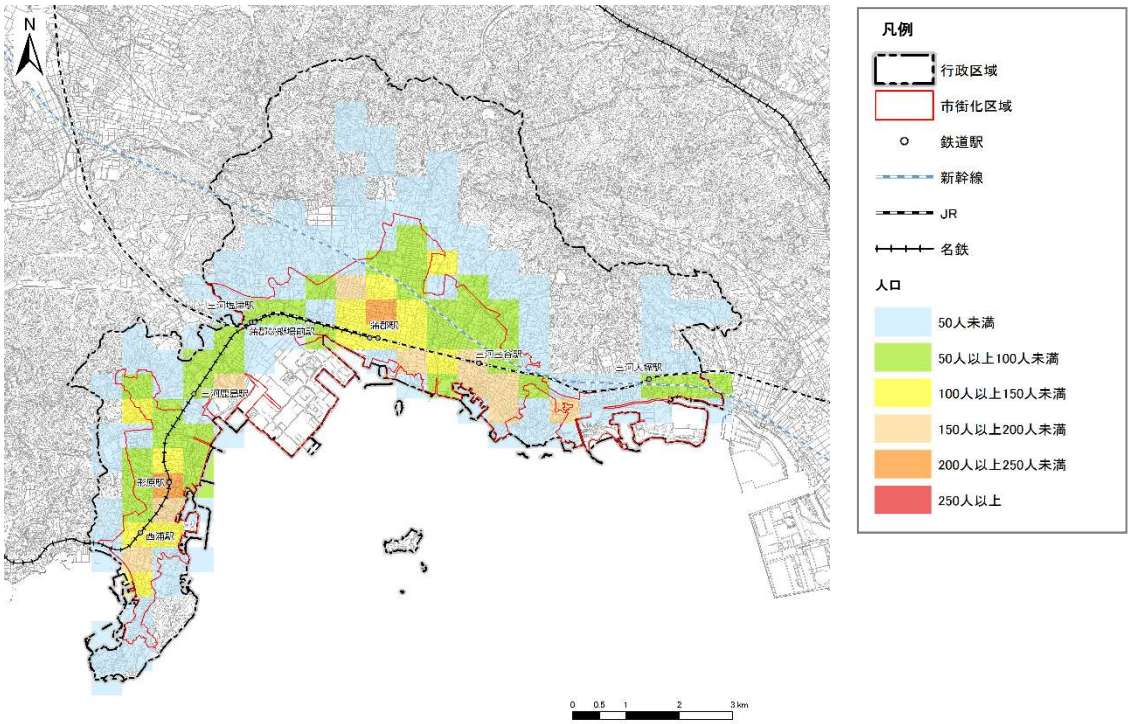
⑧　高齢者（75 歳以上）の分布（500m メッシュ）

人口の半数以上が運転免許を保有していない 75 歳以上の高齢者の人口分布を整理します。

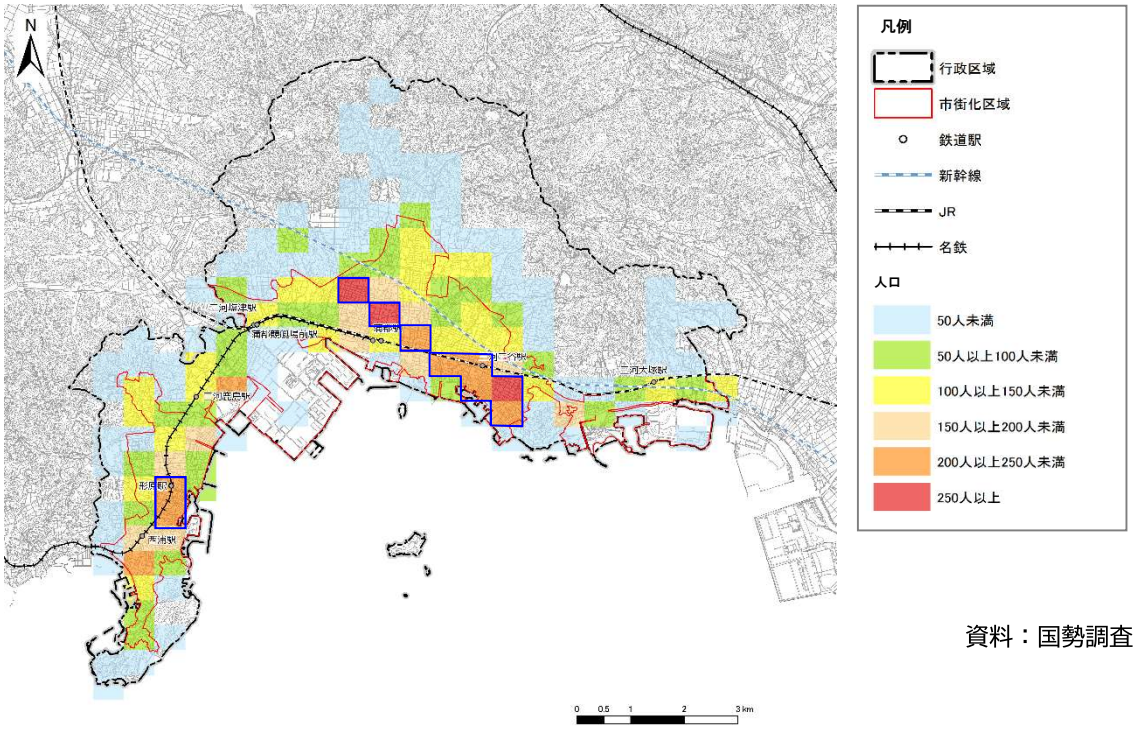
平成 17 年と平成 27 年の 75 歳以上の高齢者の分布を見ると、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■高齢者（75 歳以上）の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年人口



○平成 27 年人口

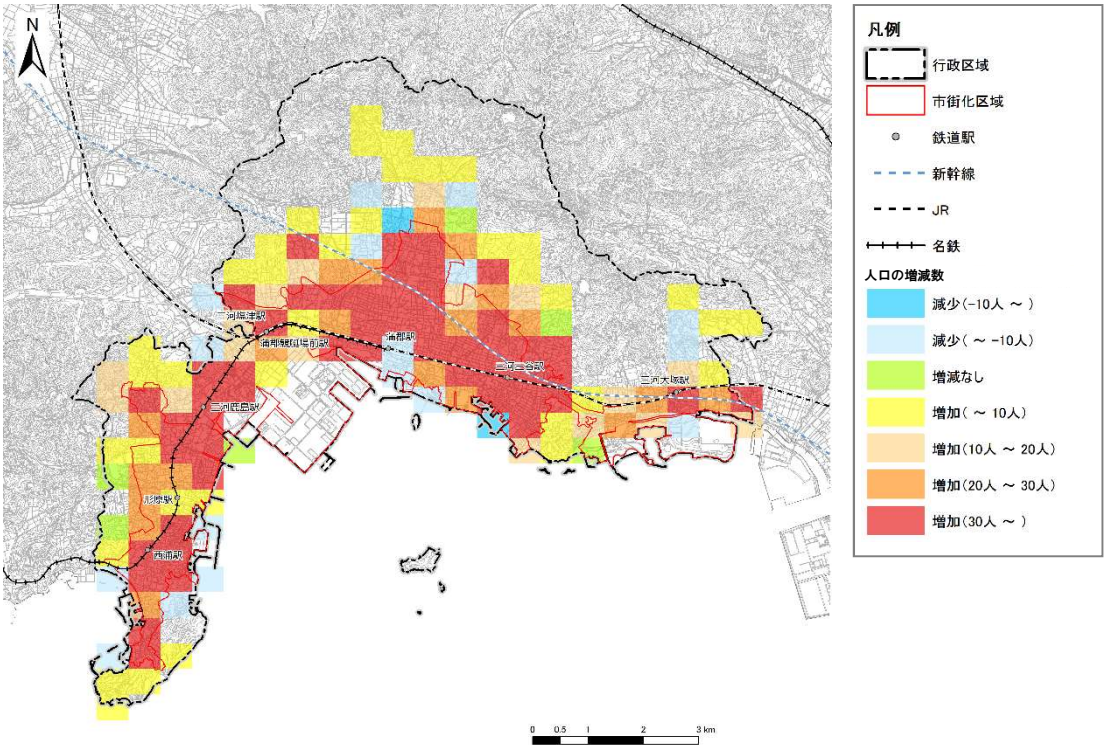


資料：国勢調査

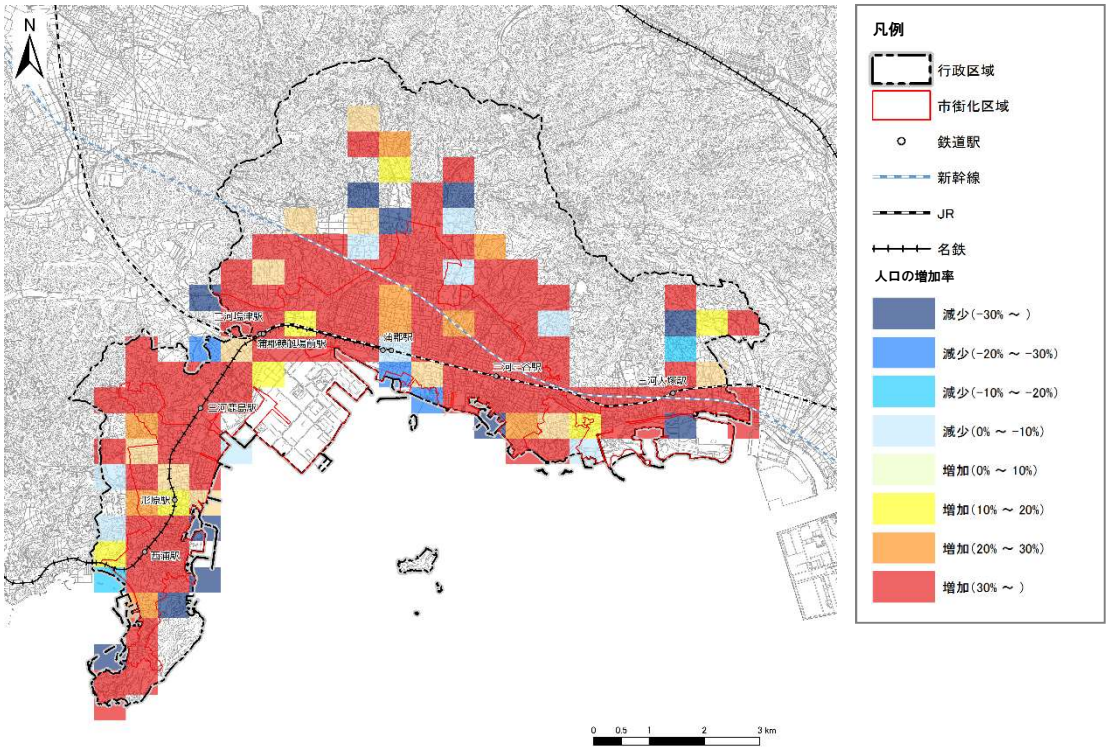
人口の増減を見ると、概ね市全体にわたり増加しています。市内の各居住地において、自動車を運転できない高齢者が増加していると考えられます。

■高齢者（75 歳以上）の分布（500m メッシュ）

○増減数(平成 27 年−平成 17 年)

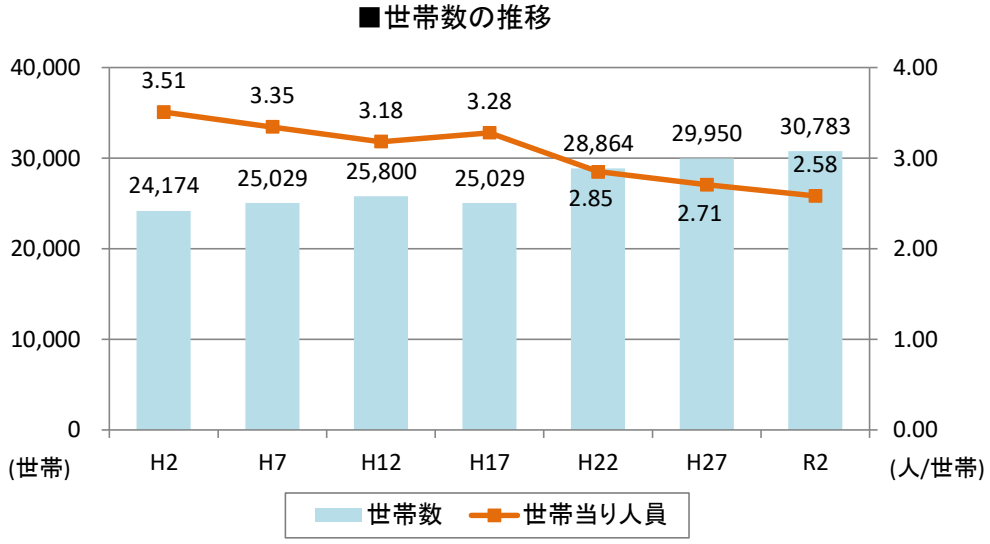


○増加率((平成 27 年÷平成 17 年)−1)



（３）　世帯数の推移

世帯数は、人口が減少している一方で増加しており、１世帯当たり人員が減少しています。



資料：国勢調査

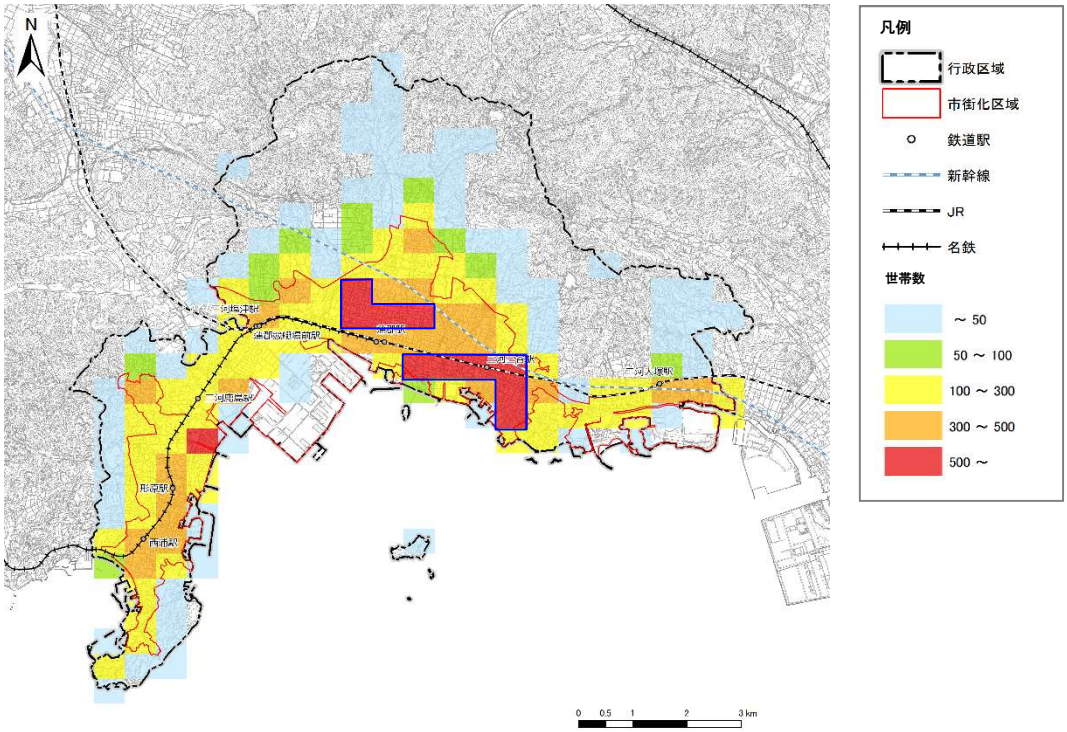
（４）　世帯数の分布

①　総世帯数（500m メッシュ）

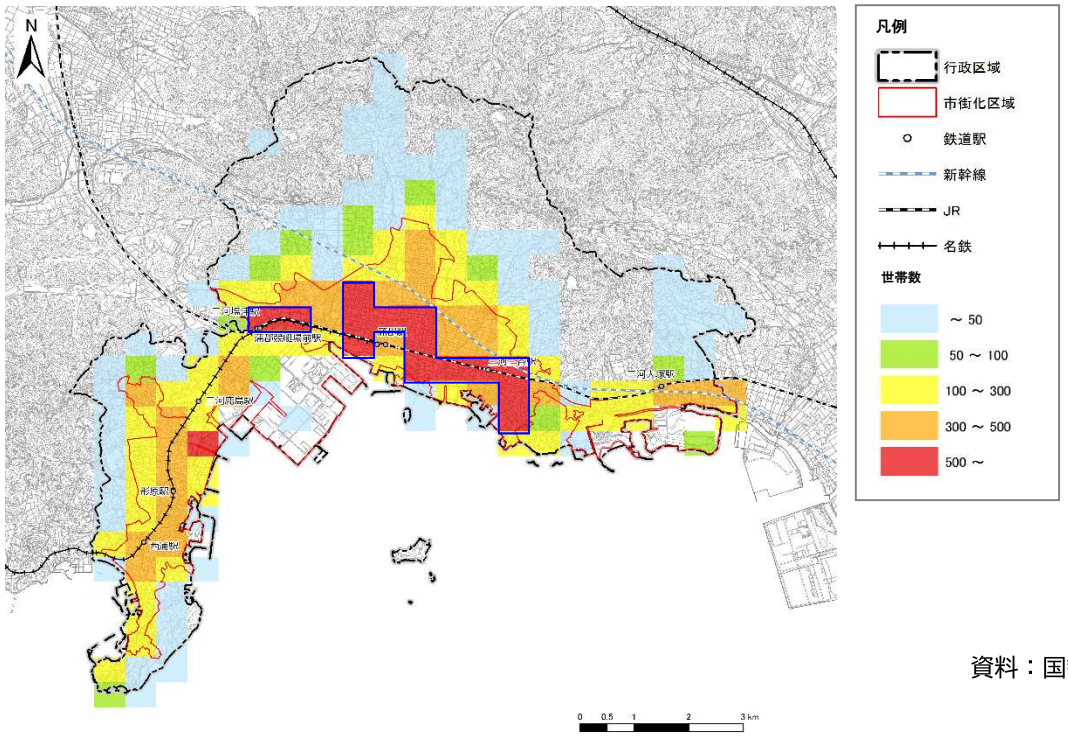
平成 17 年と平成 27 年の世帯の分布を見ると、三河塩津・蒲郡競艇場前駅から三河三谷駅周辺などの市街化区域に世帯が集積しています。

■総世帯数の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年



○平成 27 年

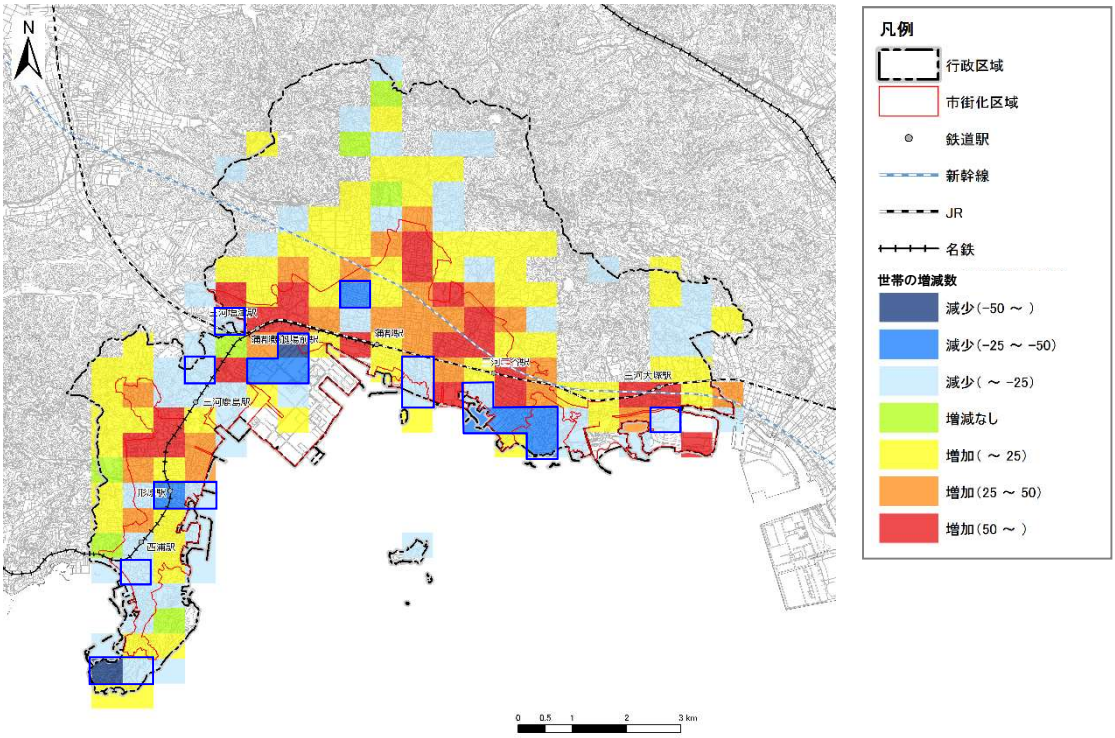


資料：国勢調査

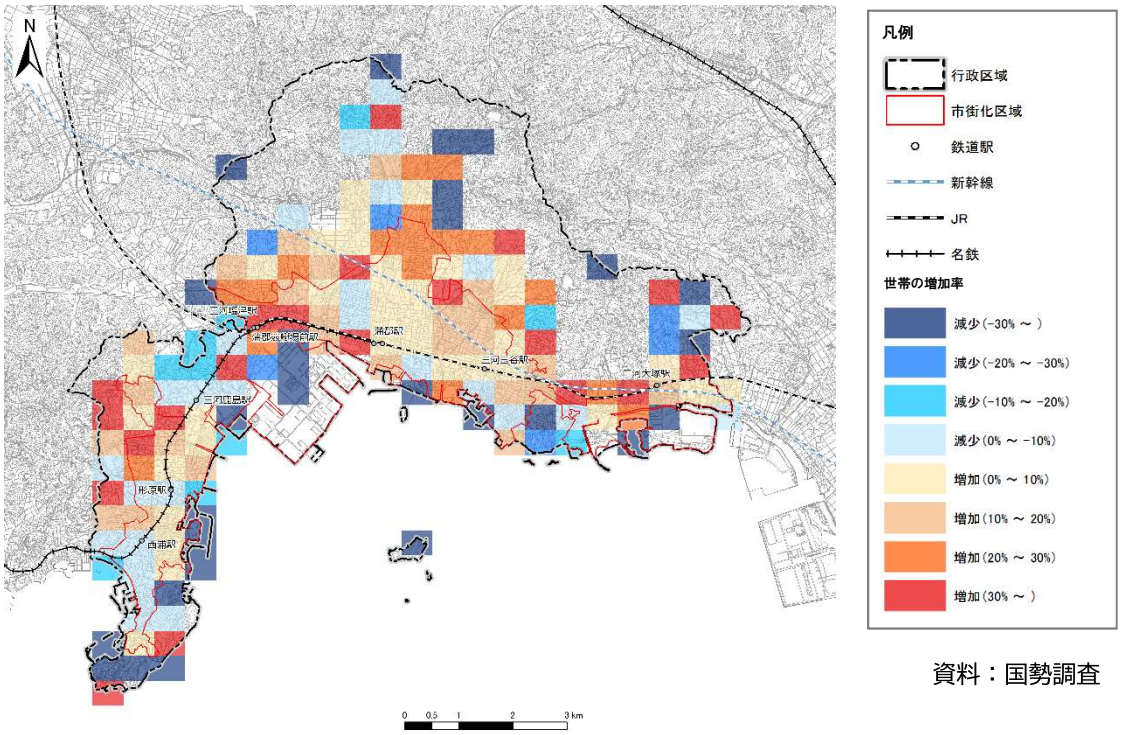
世帯数の増減を見ると、全市的に増加している地域が多いですが、三河鹿島駅以南の駅周辺や、市街化調整区域で減少している地域が見られます。

■総世帯数の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年−平成 17 年）



○増加率（（平成 27 年÷平成 17 年）−1）



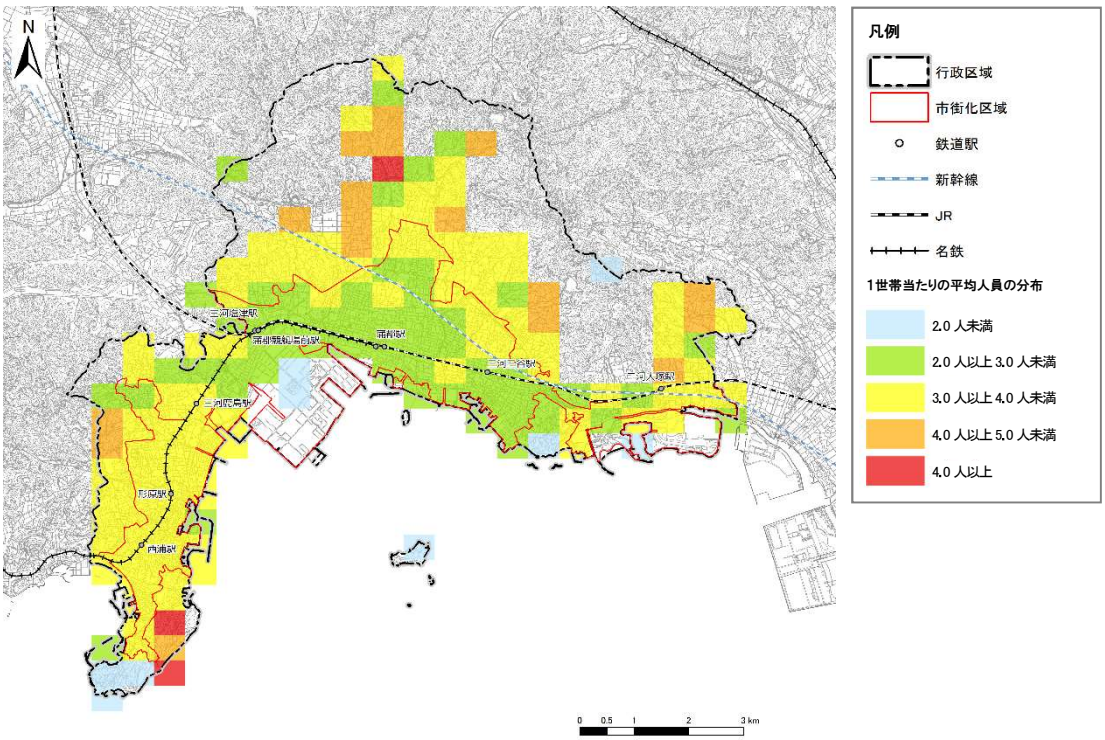
資料：国勢調査

② １世帯当たりの平均人員の分布（500m メッシュ）

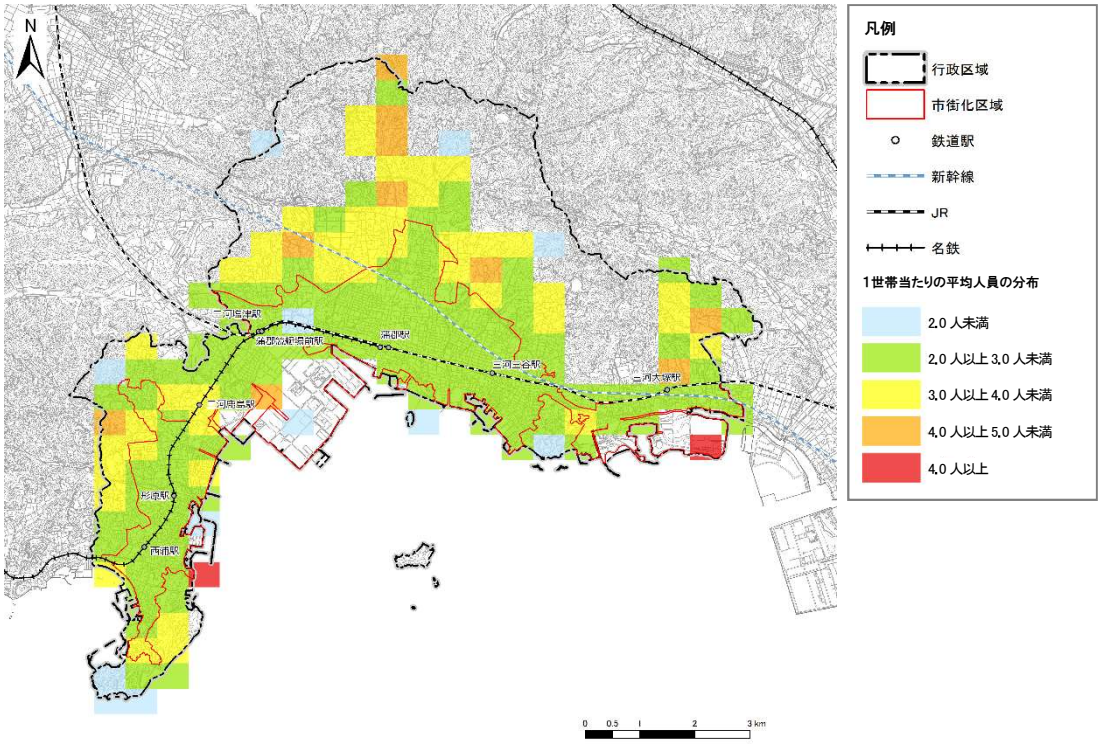
平成 17 年と平成 27 年の 1 世帯当たりの平均人員分布を見ると、市街化区域内で少ない傾向があります。増減を見ると、概ね全市的に減少しています。

■1 世帯当たりの平均人員の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年



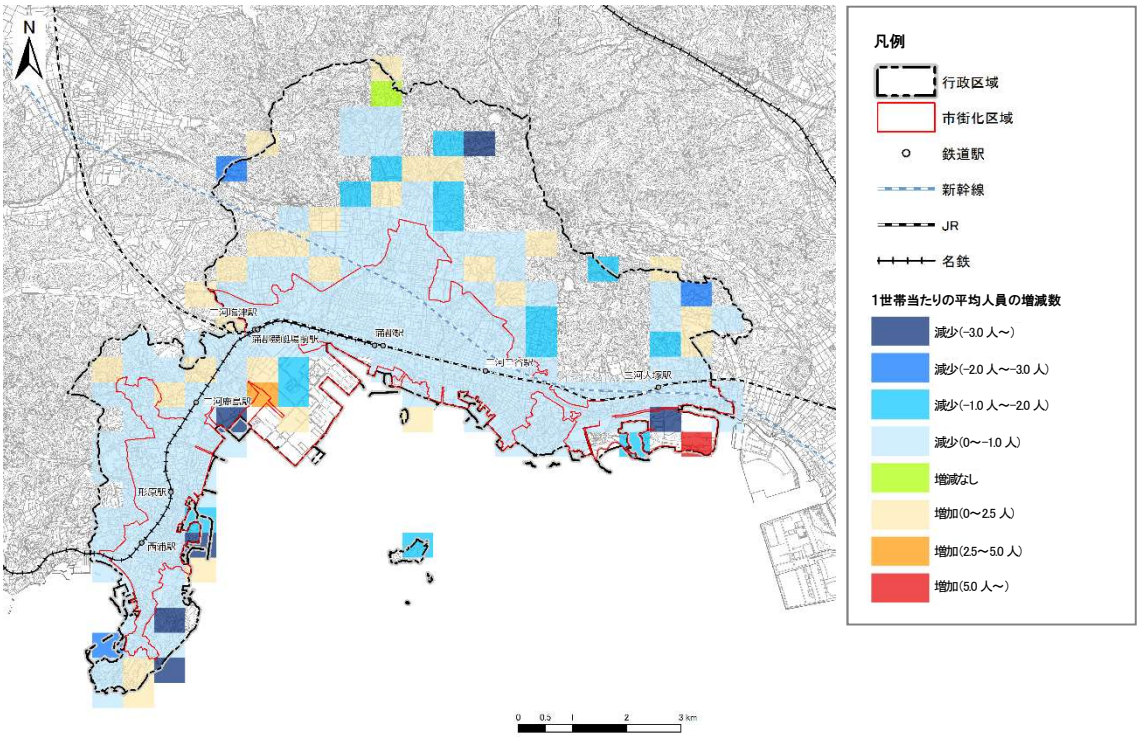
○平成 27 年



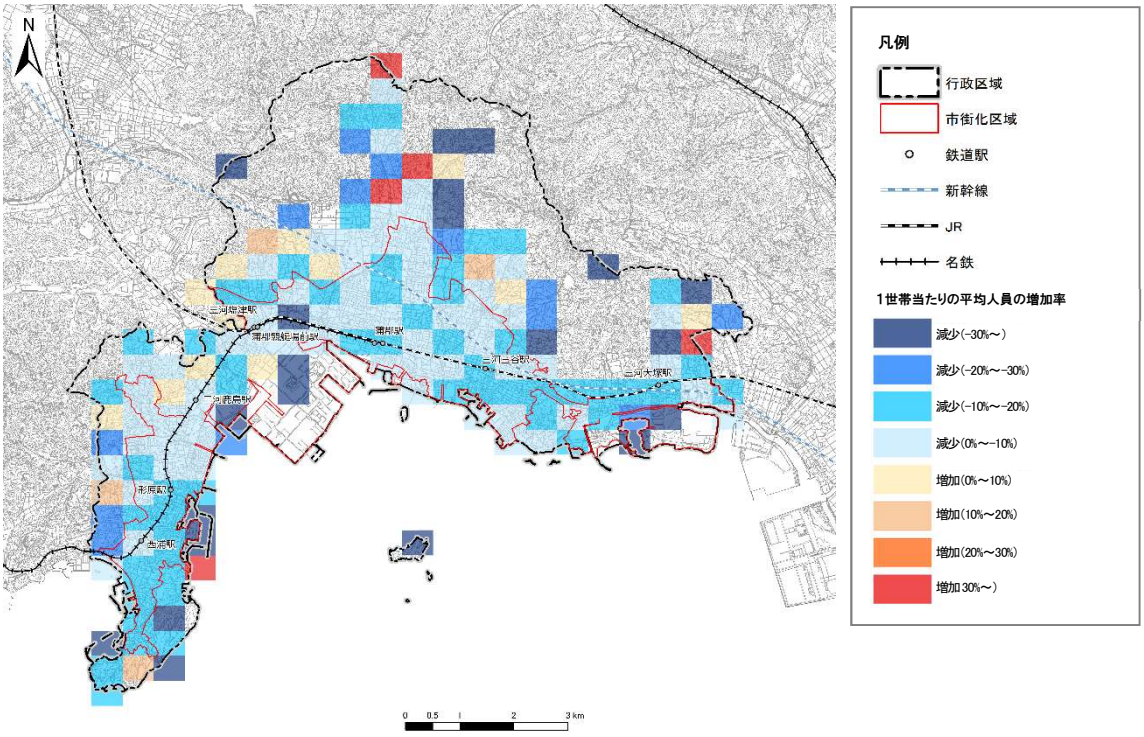
資料：国勢調査（メッシュ毎に人口を世帯数で除して算定）

■1 世帯当たりの平均人員の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年−平成 17 年）



○増加率（(平成 27 年÷平成 17 年)−1）



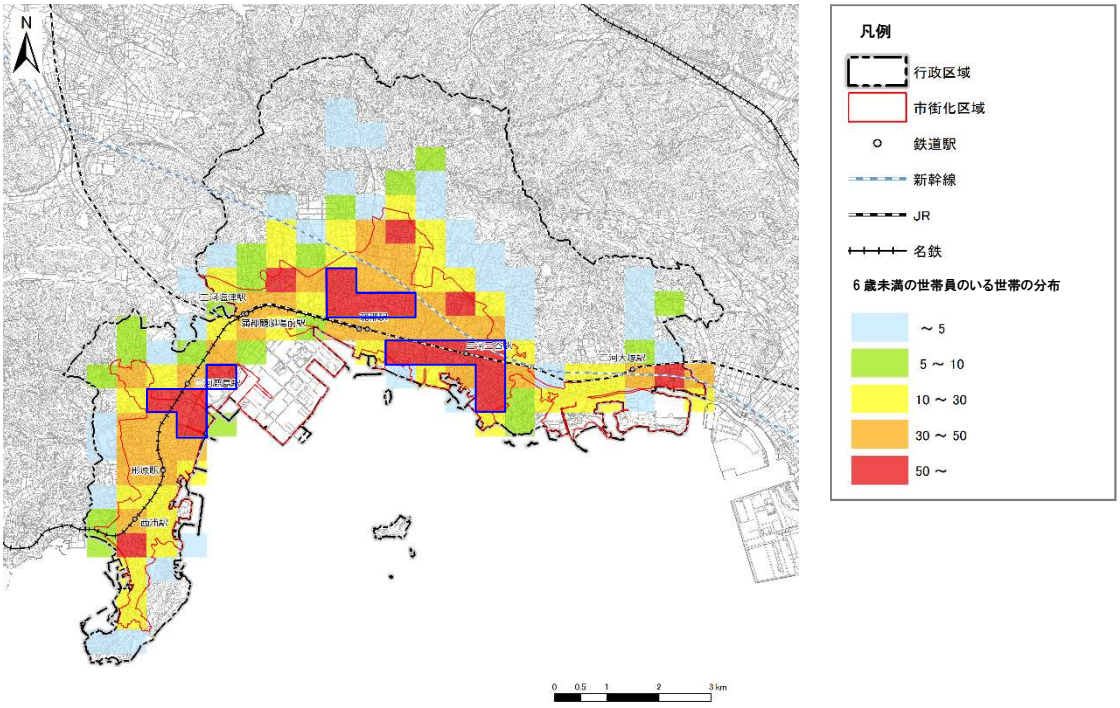
資料：国勢調査（メッシュ毎に人口を世帯数で除して算定）

③　６歳未満の世帯員のいる世帯の分布（500m メッシュ）

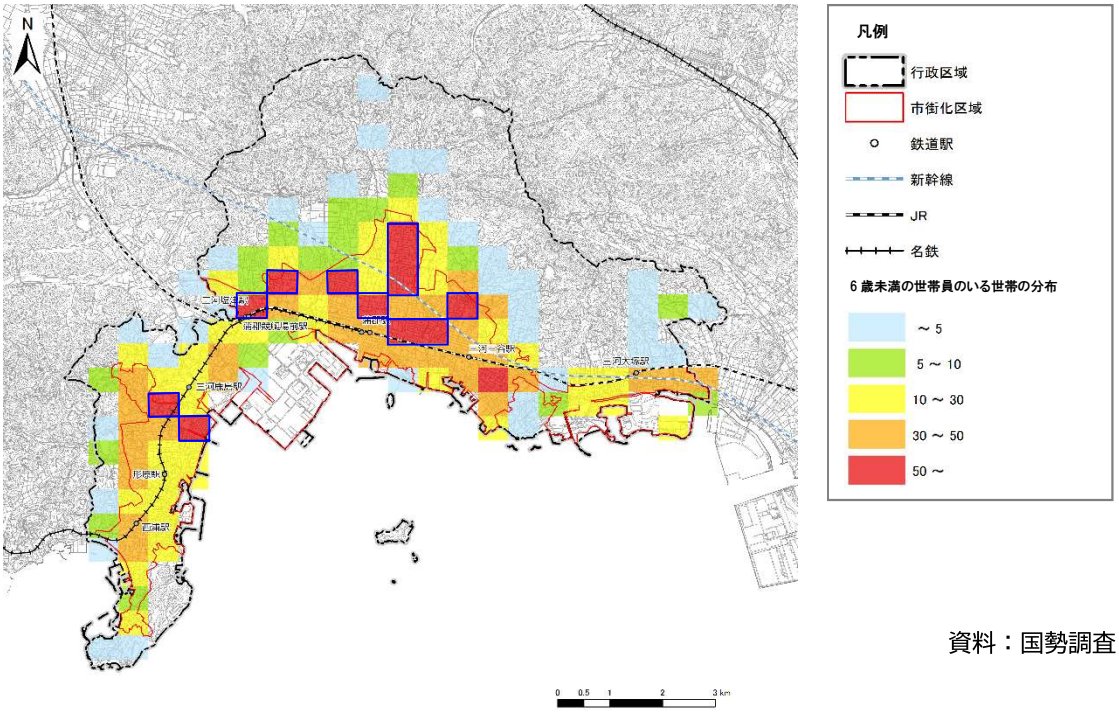
平成 17 年と平成 27 年の 6 歳未満の世帯員のいる世帯の分布を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇前駅から三河三谷駅周辺や三河鹿島駅から形原駅周辺で多い傾向があります。

■6 歳未満の世帯員のいる世帯の分布（500m メッシュ）

○平成 17 年



○平成 27 年

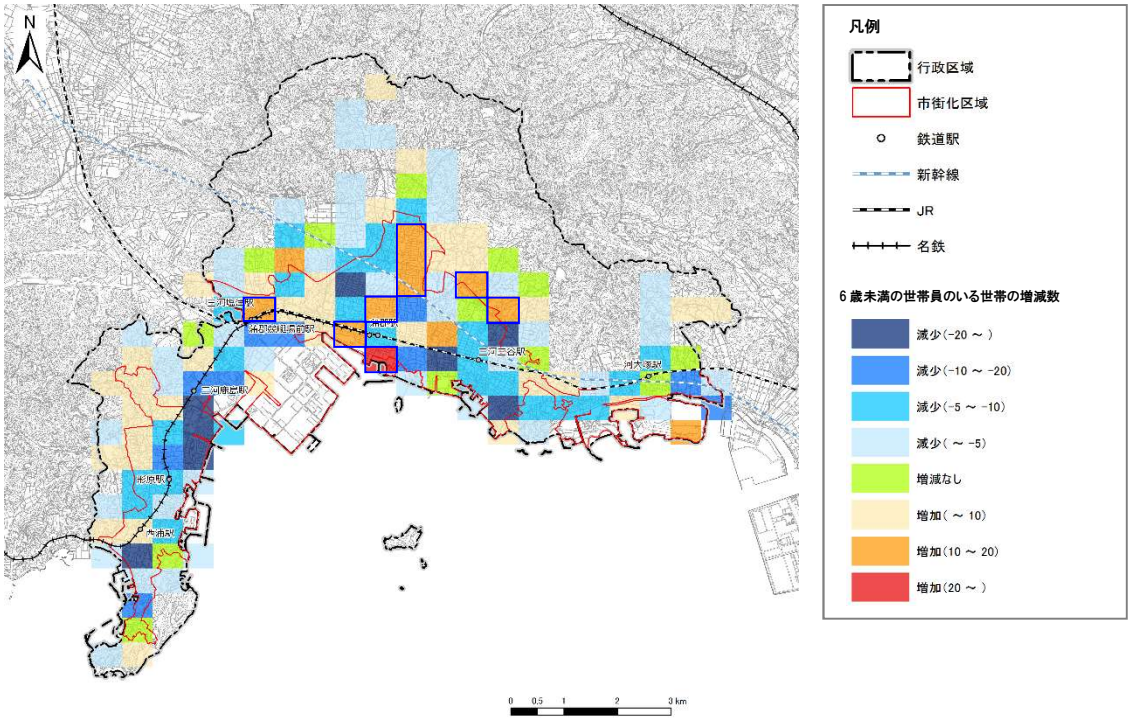


資料：国勢調査

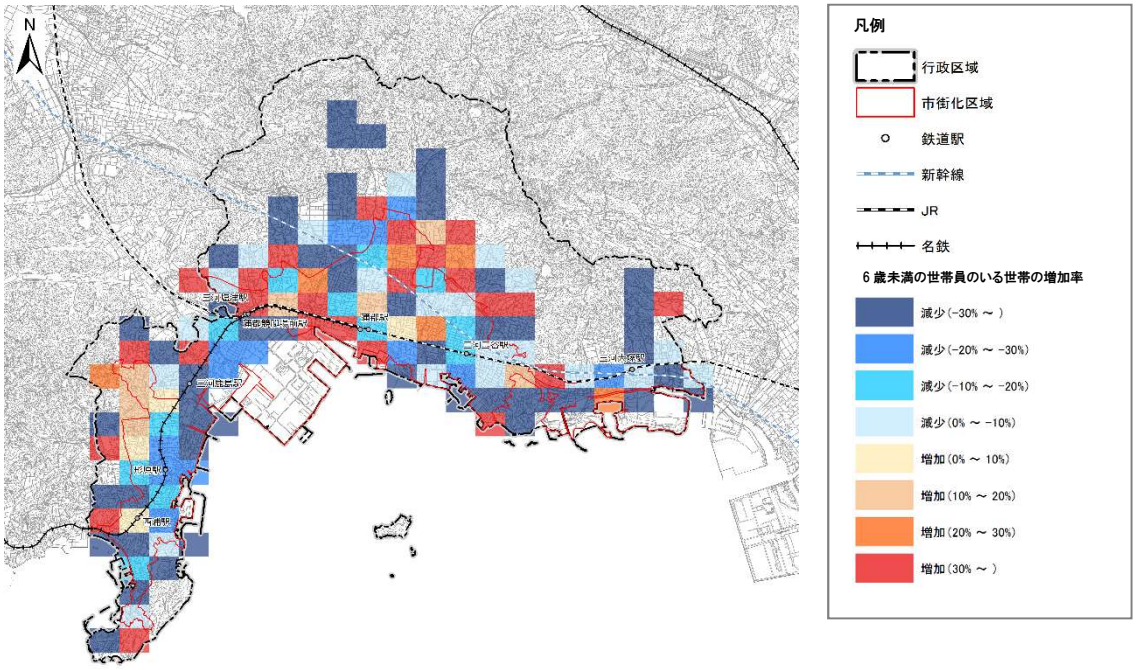
世帯数の増減を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇前駅や蒲郡駅周辺、施行中の蒲郡中部土地区画整理事業施行区域などで増加しています。

■6 歳未満の世帯員のいる世帯の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年−平成 17 年）



○増加率（（平成 27 年÷平成 17 年）-1）



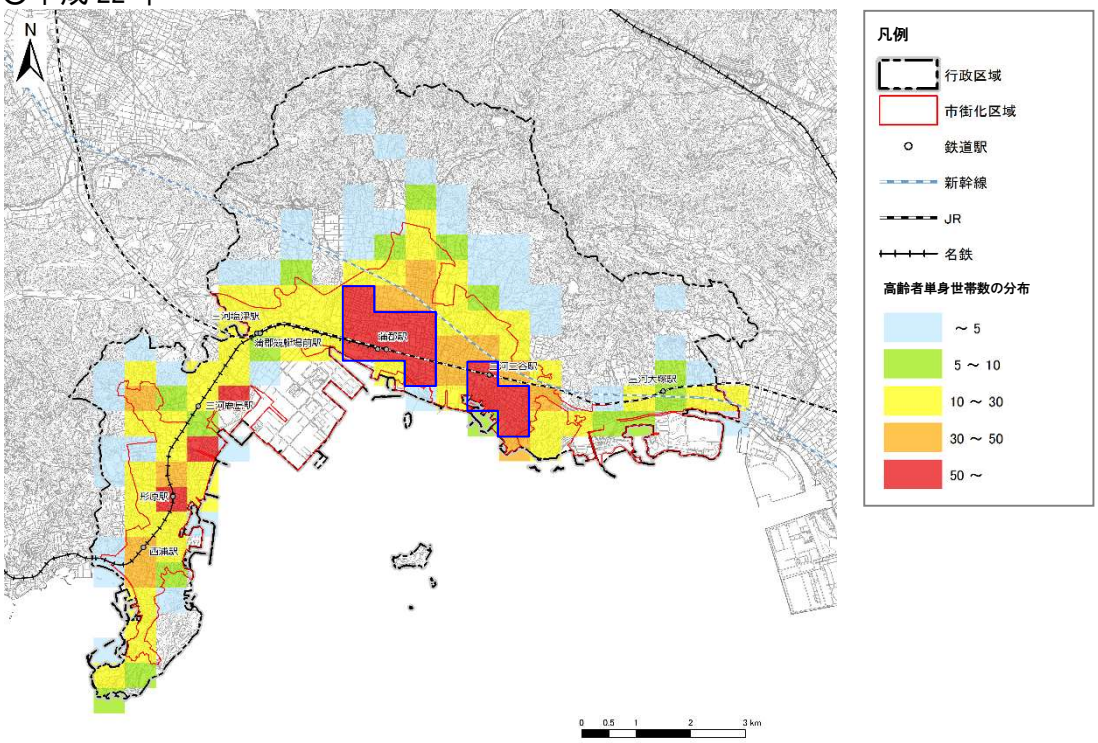
資料：国勢調査

④　高齢者単身世帯数の分布（500m メッシュ）

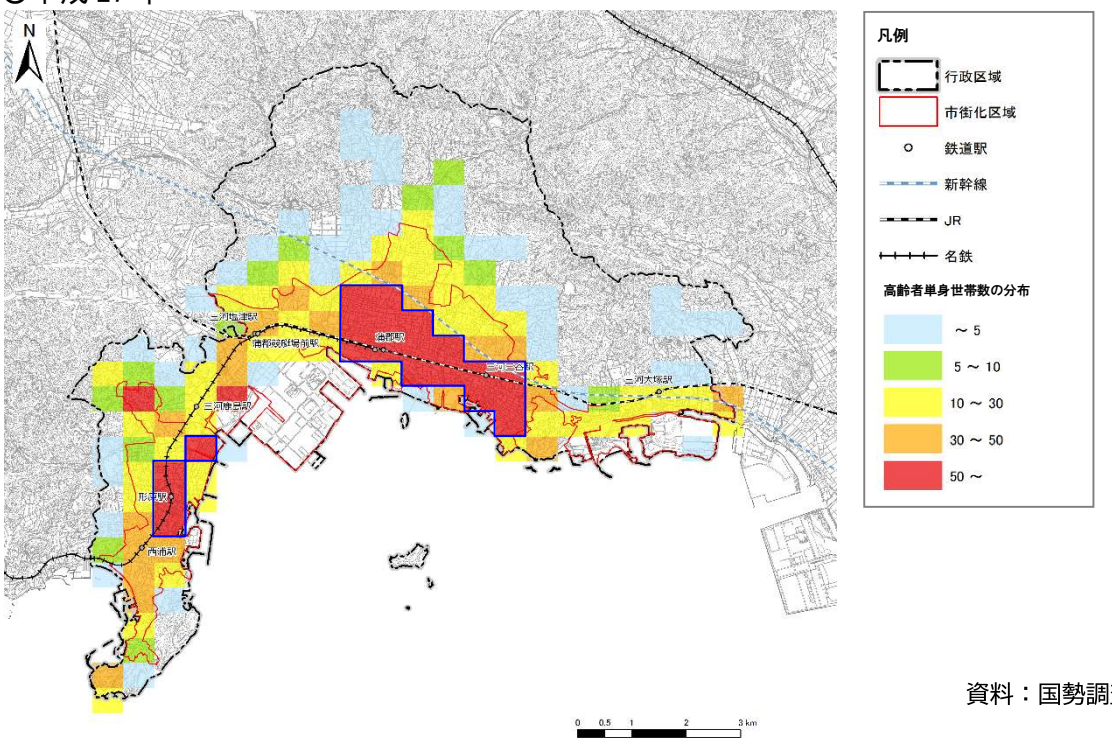
平成 22 年と平成 27 年の高齢者単身世帯数の分布を見ると、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅周辺で多い傾向があります。

■高齢者単身世帯数の分布（500m メッシュ）

○平成 22 年



○平成 27 年

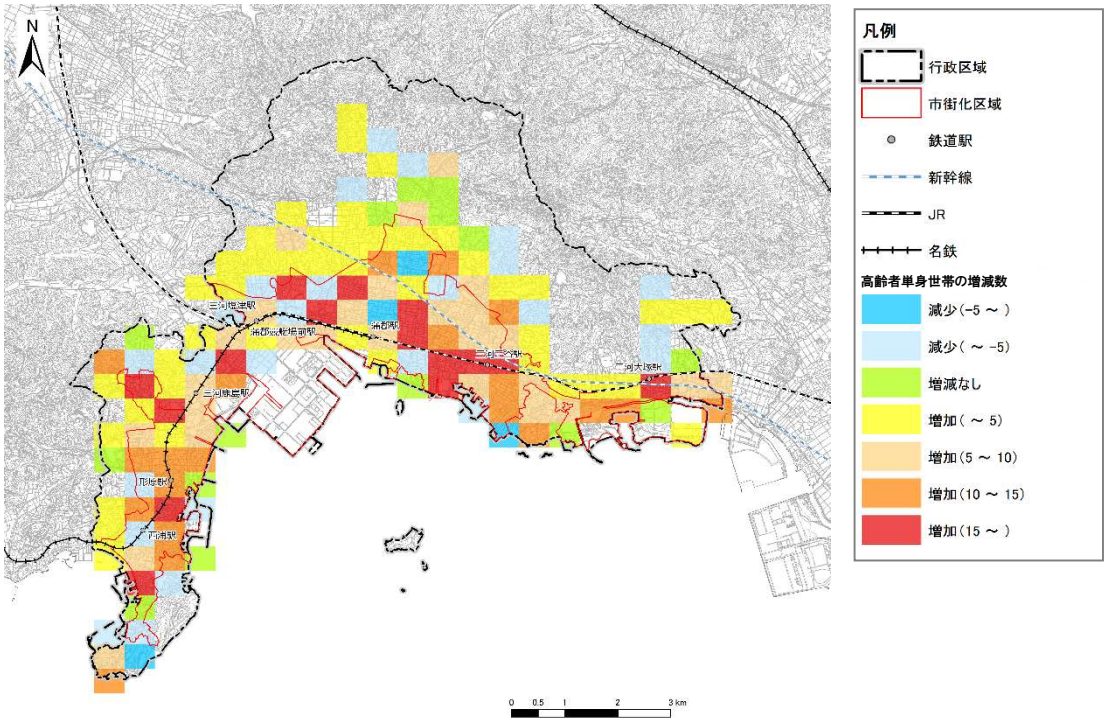


資料：国勢調査

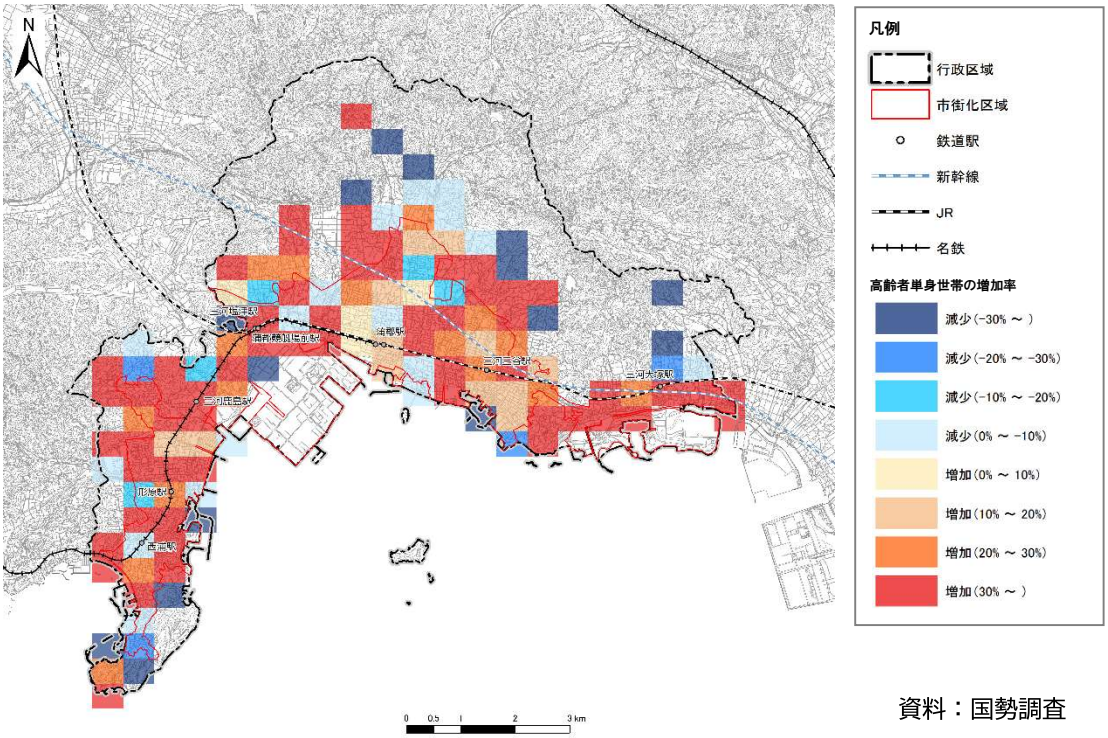
世帯数の増減を見ると、概ね全市的に増加しています。

■高齢者単身世帯数の分布（500m メッシュ）

○増減数(平成 27 年−平成 22 年)



○増加率((平成 27 年÷平成 22 年)−1)

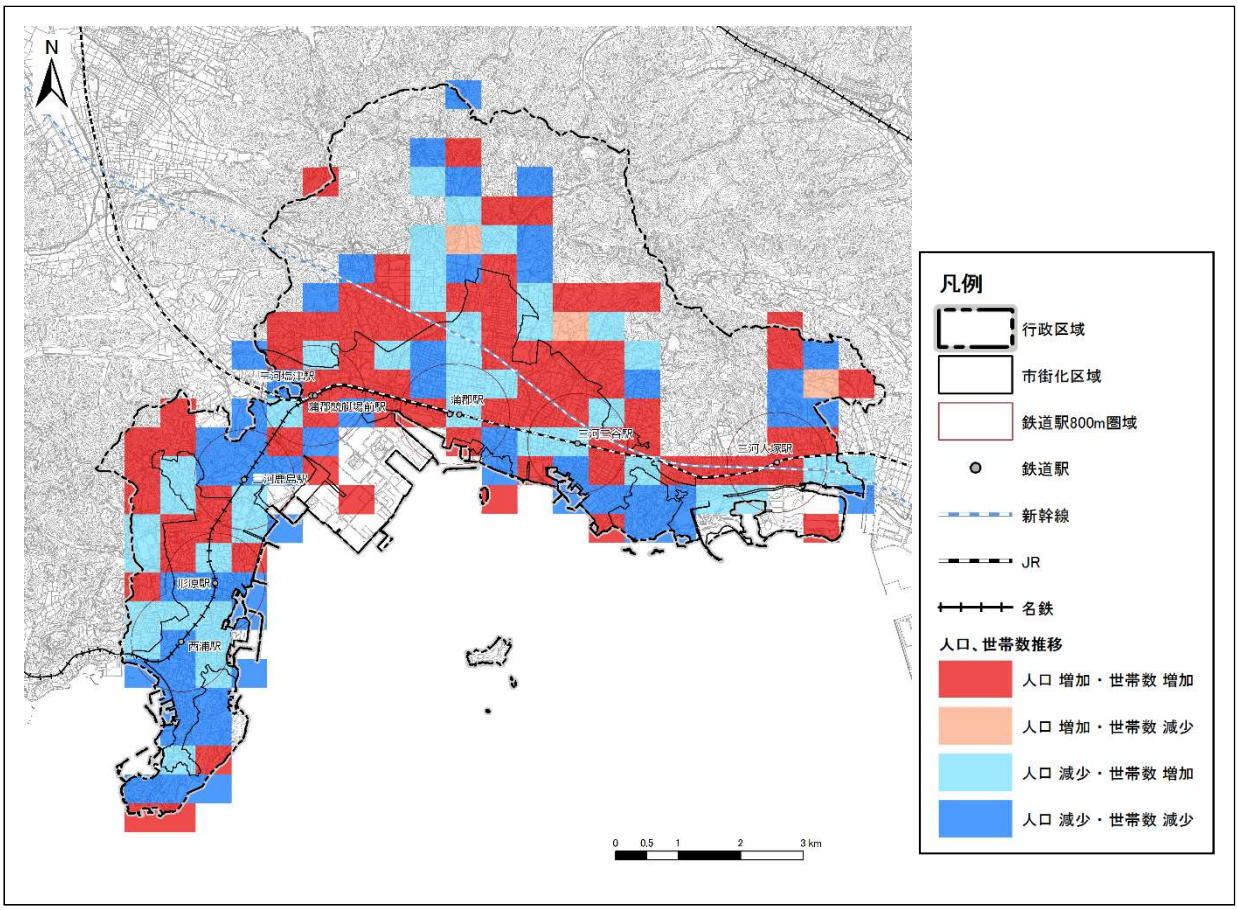


資料：国勢調査

（５）　人口及び世帯数の動向

平成 17 年から平成 27 年までの人口及び世帯数の推移を見ると、三河塩津・蒲郡競艇場前駅周辺、蒲郡中部や双太山土地区画整理事業施行区域などにおいて人口・世帯数ともに増加していますが、蒲郡駅や三河三谷駅周辺などでは、人口は減少、世帯数は増加しています。さらに、三河鹿島駅以南の駅周辺や市街化区域の一部などで人口・世帯数ともに減少している地域もあります。

■平成 17 年から平成 27 年までの人口及び世帯数の推移（500m メッシュ）



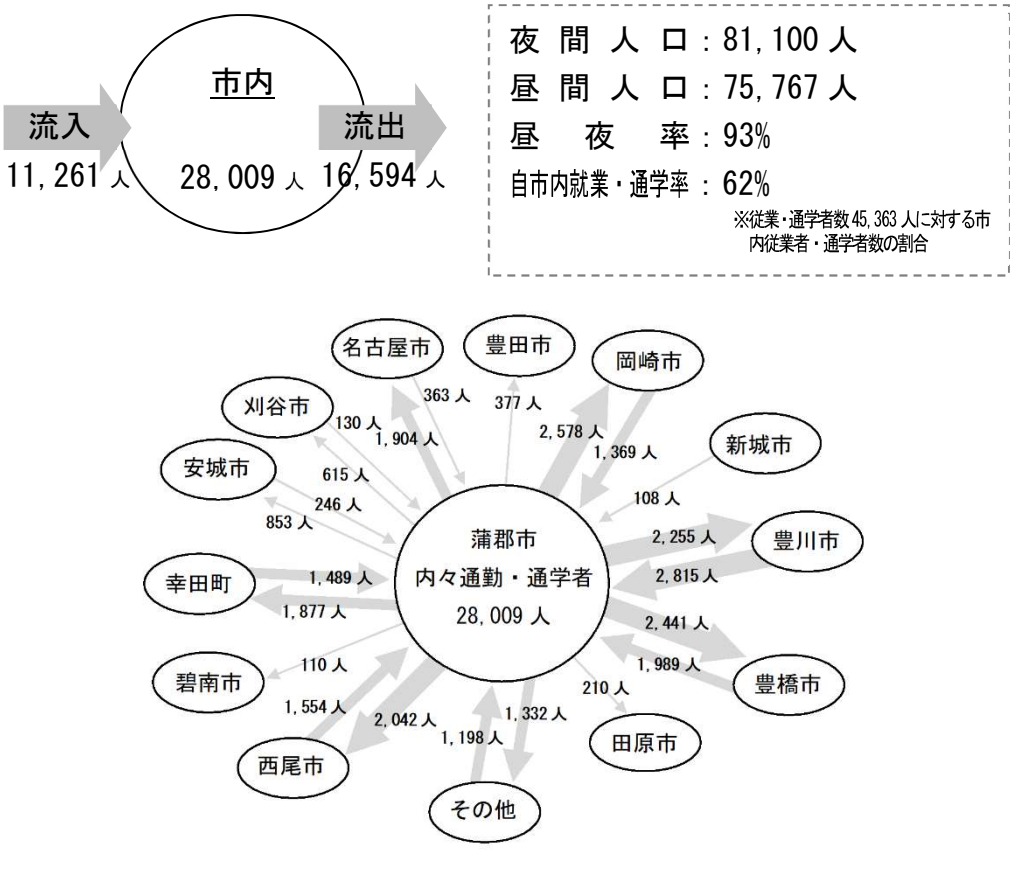
２－３ 経済活動等

（１） 都市間流動（通勤・通学流動）

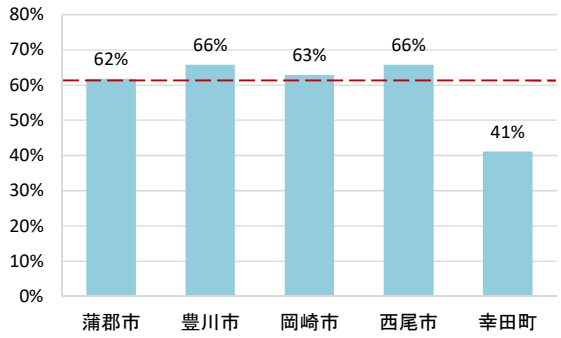
市内での通勤・通学者数は、本市の就業・通学者数の 62%となっています。昼夜率は 93%であり、流出超過となっています。都市別の流動を見ると、豊川市や豊橋市、岡崎市などの近隣自治体間の移動が多い状況です。

自市内就業・通学率は、周辺市と同程度となっています。

■蒲郡市の通勤・通学流動



■周辺市町との自市内就業・通学率の比較



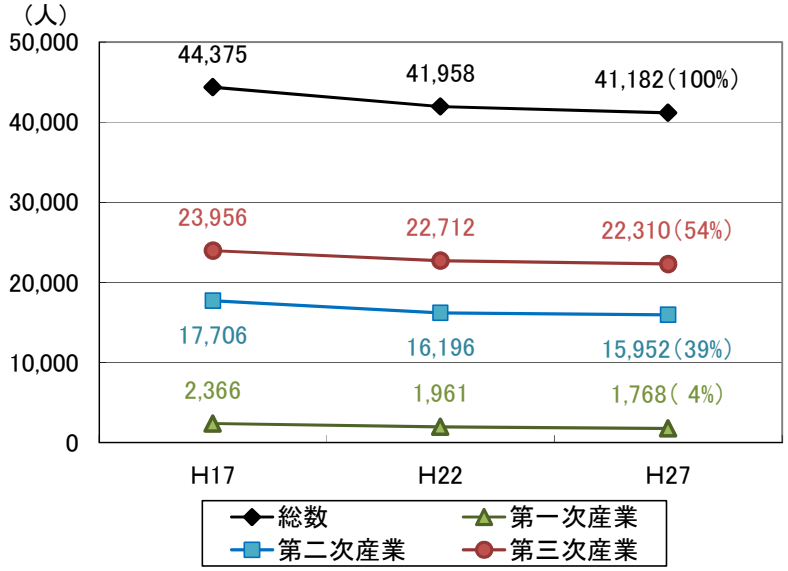
資料：平成 27 年国勢調査

（２）　産業別就業者数

平成27年の産業別の従業者人口の割合を見ると、第3次産業人口が全体の54%、第2次産業人口が39%、第1次産業が4%を占めています。

推移を見ると、各産業で従業者数が減少傾向です。

■産業区分別従業者数の推移



※第一次産業：農業、林業、漁業
　第二次産業：鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業
　第三次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、その他サービス業、公務

資料：国勢調査

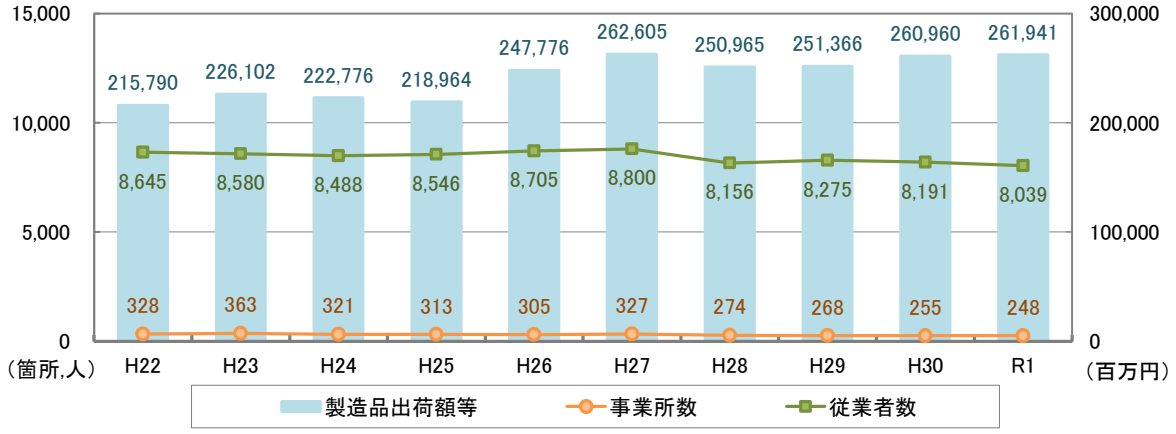
（３）　工業

事業所数は減少傾向にあり、令和元年は、約 10 年前の平成 22 年の 76%にあたる 248 箇所です。

従業者数は、平成 24～27 年まで減少から増加に転じていましたが、平成 28 年以降は減少傾向にあります。

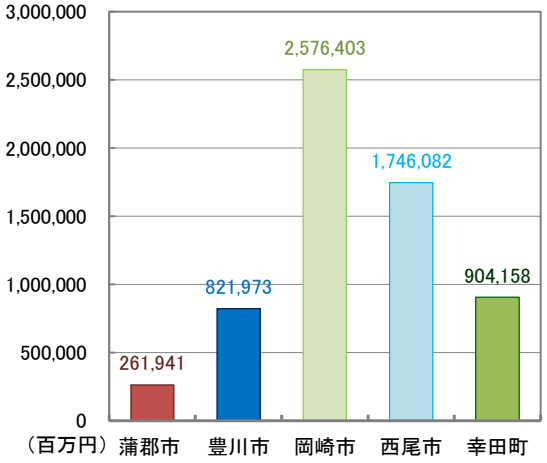
製造品出荷額等は増加傾向にあり、令和元年は、約 10 年前の平成 22 年の 1.2 倍にあたる 261,941 百万円です。

■工業の動向

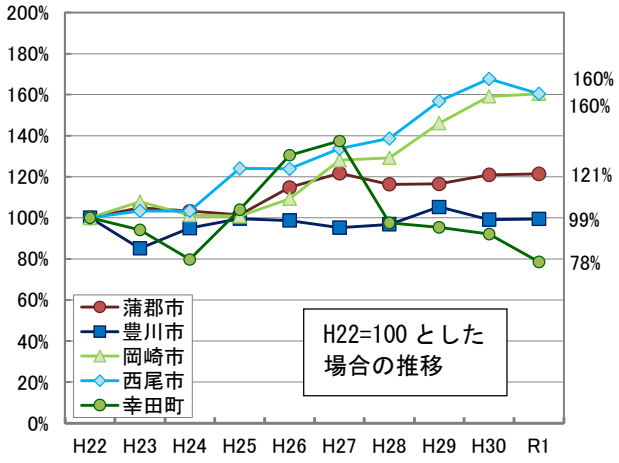


資料：工業統計

■製造品出荷額等の都市間の比較（R1）



■製造品出荷額等の伸び率の都市間の比較



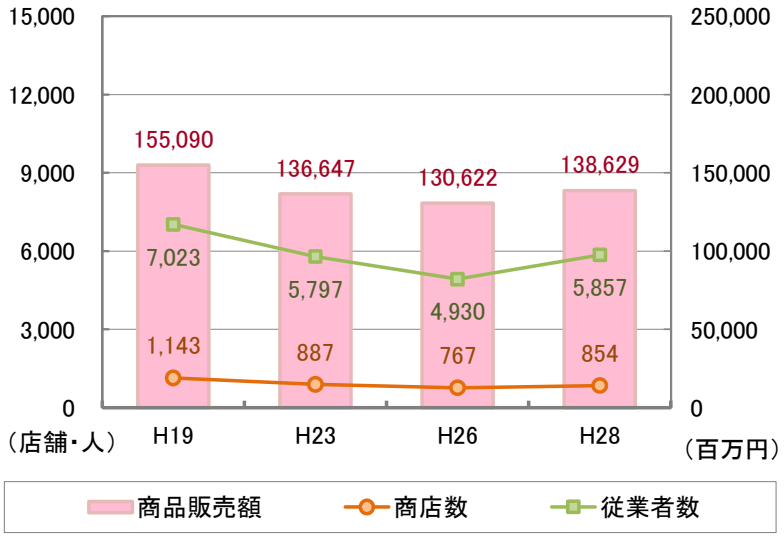
資料：工業統計

（４）　商・サービス業

商品販売額、商店数、従業者数ともに中期的には減少していますが、平成 28 年は平成 26 年より増加しています。

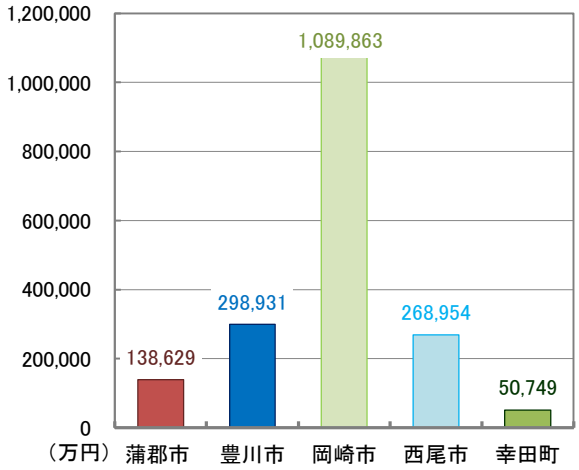
商品販売額の推移を周辺市と比較すると、減少率が大きい状況です。

■商・サービス業の動向

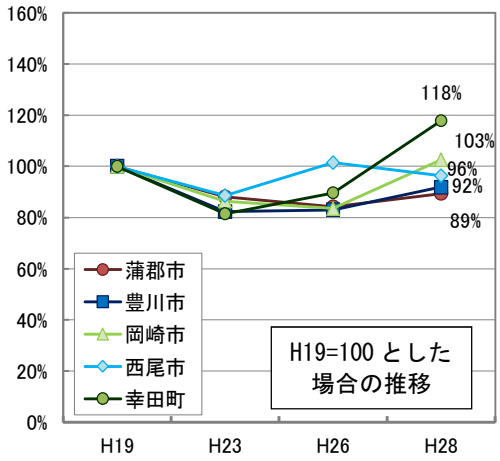


資料：(H19、H26)商業統計調査、(H23、H28)経済センサス活動調査

■商品販売額の都市間の比較（H28）



■商品販売額の伸び率の都市間の比較



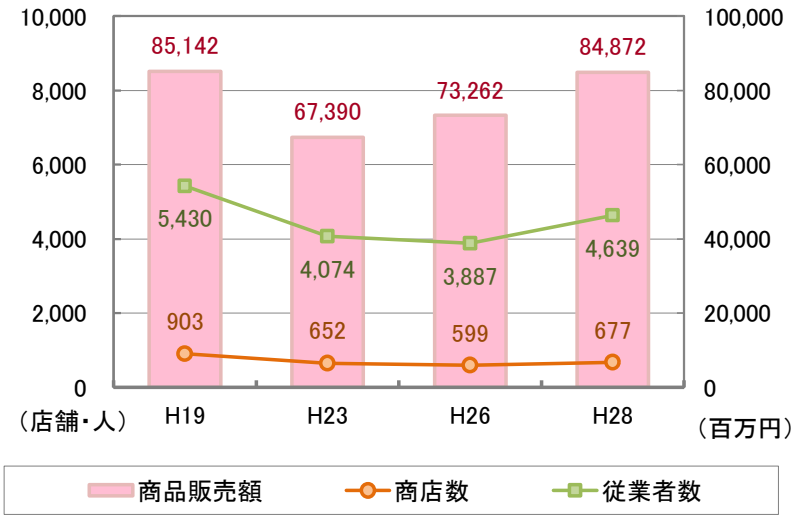
資料：(H19、H26)商業統計調査、(H23、H28)経済センサス活動調査

（５）　商・サービス業（小売業）

小売業の商品販売額は平成 28 年には、リーマンショック前の平成 19 年の水準まで回復しています。商店数、従業者数は中期的には減少していますが、平成 28 年は平成 26 年より増加しています。

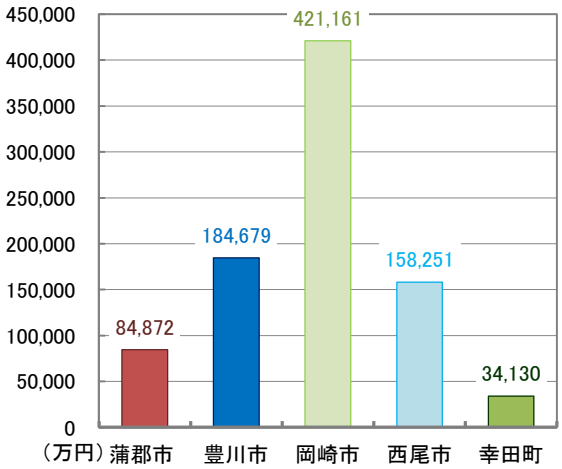
平成 28 年の商品販売額は、周辺市では平成 19 年と比較し増加している中で、蒲郡市は横ばいとなっています。

■商・サービス業（小売業）の動向

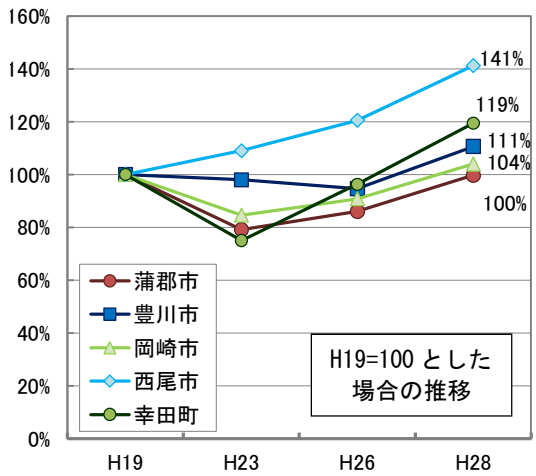


資料：(H19、H26)商業統計調査、(H23、H28)経済センサス活動調査

■商品販売額の都市間の比較（H28）



■商品販売額の伸び率の都市間の比較



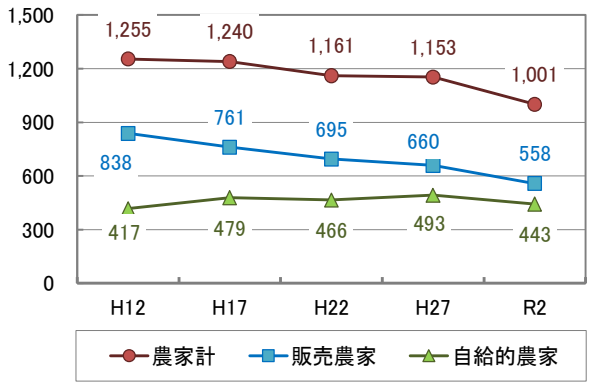
資料：(H19、H26)商業統計調査、(H23、H28)経済センサス活動調査

（６）　農業

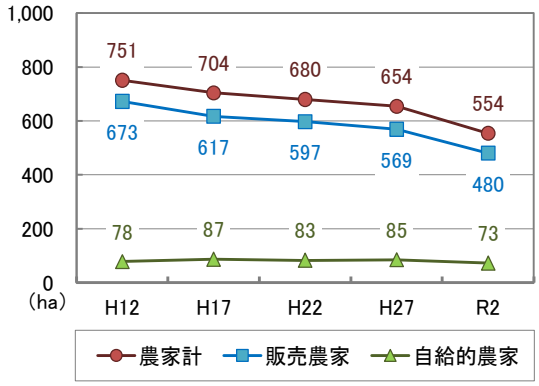
販売農家数は減少傾向であり、自給的農家数は平成 27 年まで増加傾向でしたが、その後減少に転じています。

販売農家の経営耕地面積は減少傾向ですが、自給的農家は概ね横ばいです。

■農家数の動向



■経営耕地面積の動向



資料：農林業センサス

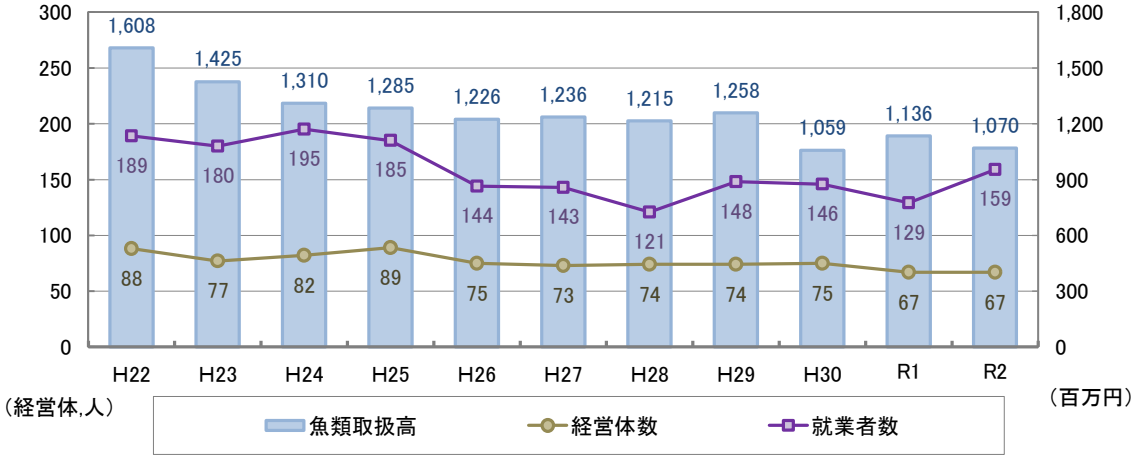
（７）　水産業

経営体数は平成 26 年以降で概ね横ばいでしたが、令和元年には減少しています。

就業者数は、平成 28 年まで減少していましたが、その後増加傾向です。

魚類取扱高は、横ばいで推移する期間もありますが、平成 22 年以降減少傾向です。

■水産業の動向



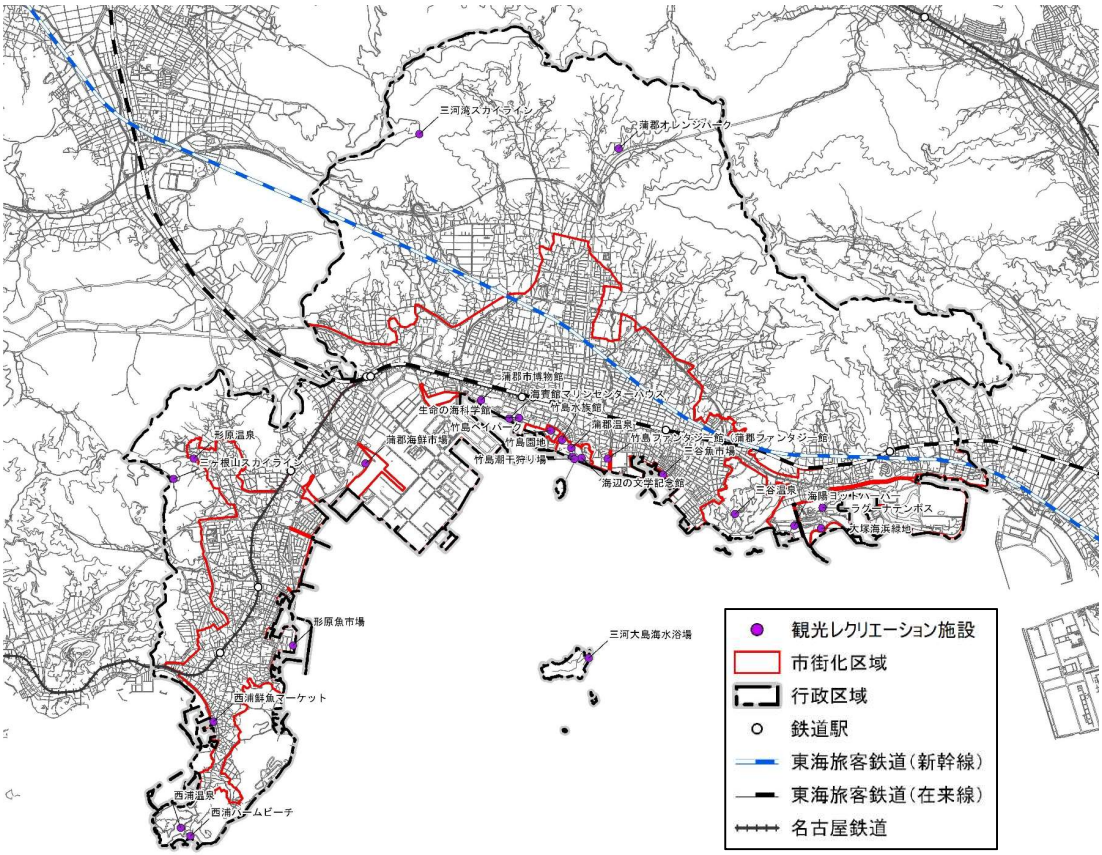
資料：蒲郡の統計

（８）　観光業

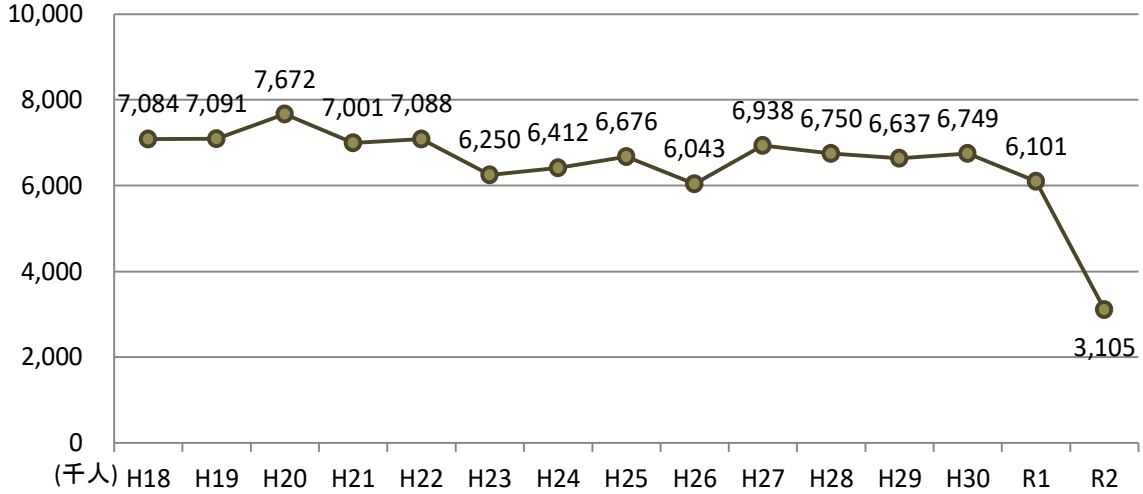
蒲郡市には、自然、歴史・文化、温泉・健康、スポーツ・レクリエーションの各分野における県内有数の観光施設が多数立地しています。

観光入込客数は、令和元年までは概ね横ばいで推移していましたが、令和 2 年は大きく減少しています。

■主な観光施設位置図

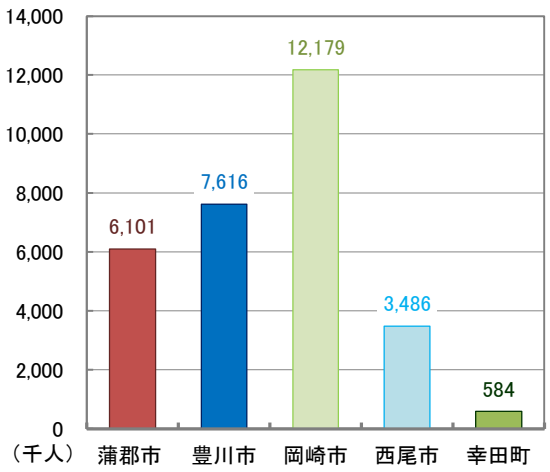


■観光入込客数の動向

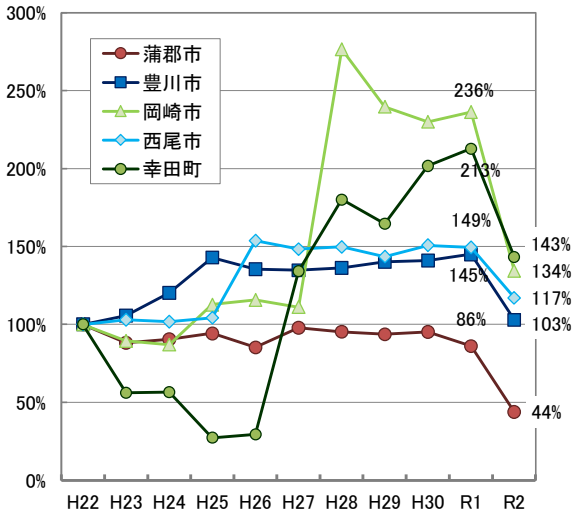


資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計

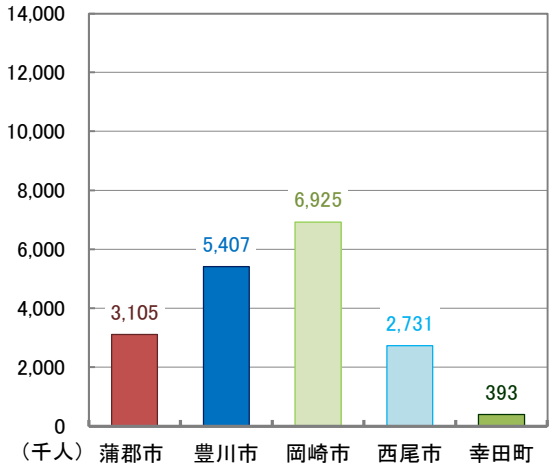
■観光入込客数の都市間の比較（R1）



■観光入込客数の伸び率(H22=100)



■観光入込客数の都市間の比較（R2）



資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計

■観光入込客数と県内順位

区分	施設名	R1 入込客数（区分別県内順位）	R2 入込客数（区分別県内順位）
自然	竹島園地	370,308 人（ 3 位）	168,871 人（ 5 位）
歴史・文化	蒲郡オレンジパーク	492,000 人（23 位）	229,200 人（25 位）
温泉・健康	三谷温泉	288,671 人（ 3 位）	110,395 人（ 5 位）
	西浦温泉	228,570 人（ 6 位）	105,904 人（ 6 位）
	蒲郡温泉	225,746 人（ 7 位）	137,386 人（ 4 位）
	形原温泉	55,582 人（16 位）	14,105 人（19 位）
スポーツ・レクリエーション	ラグーナテンボス	2,558,420 人（ 1 位）	1,583,756 人（ 1 位）

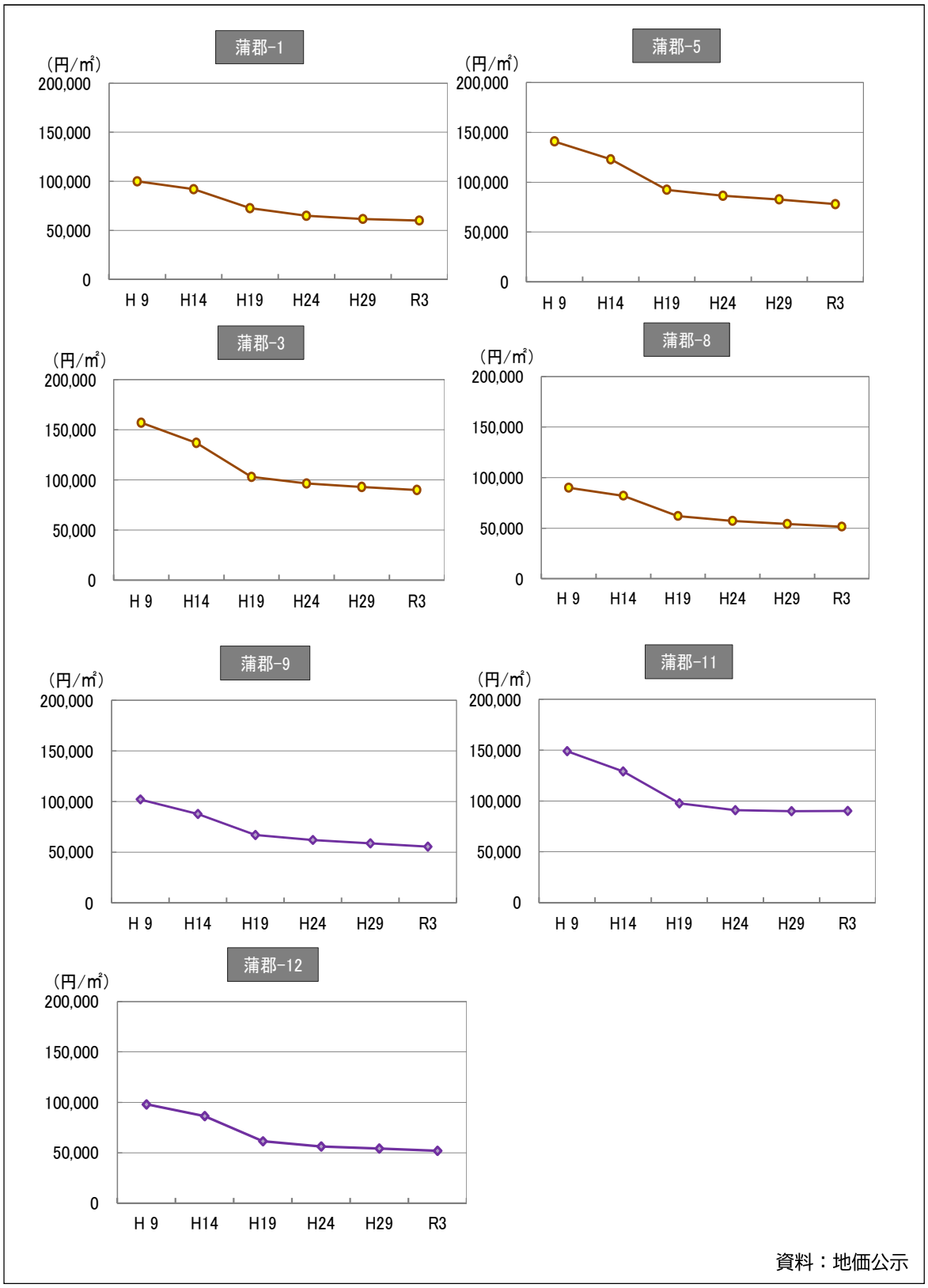
資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計、蒲郡市資料

（９）　地価の推移

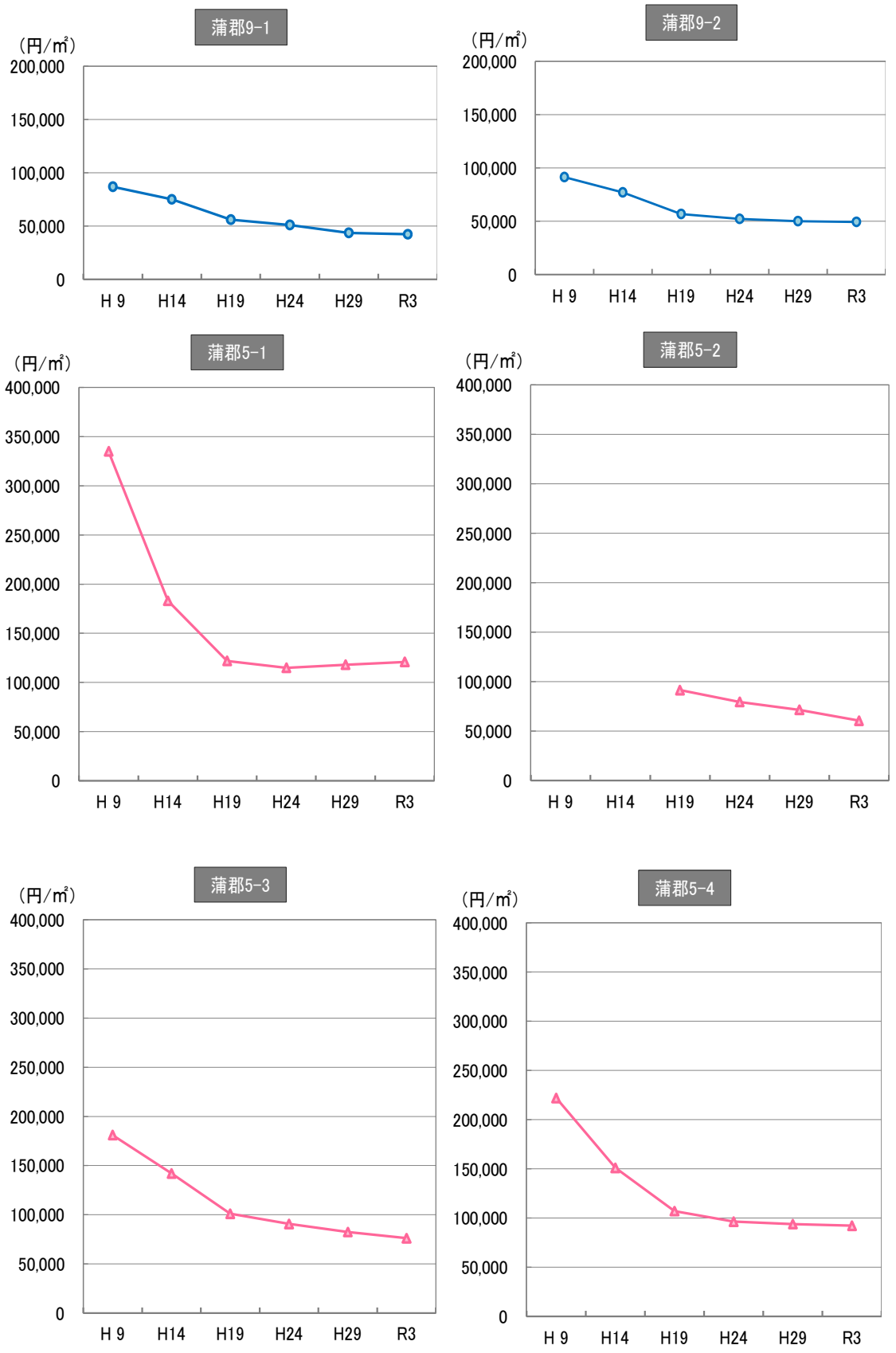
各地点とも、近年の 10 年間は減少幅が少なくなっていますが、長期にわたり減少傾向です。

一方で、蒲郡駅北側の「蒲郡 5-1」では、近年、増加傾向にあります。

■市内の地価公示価格の推移

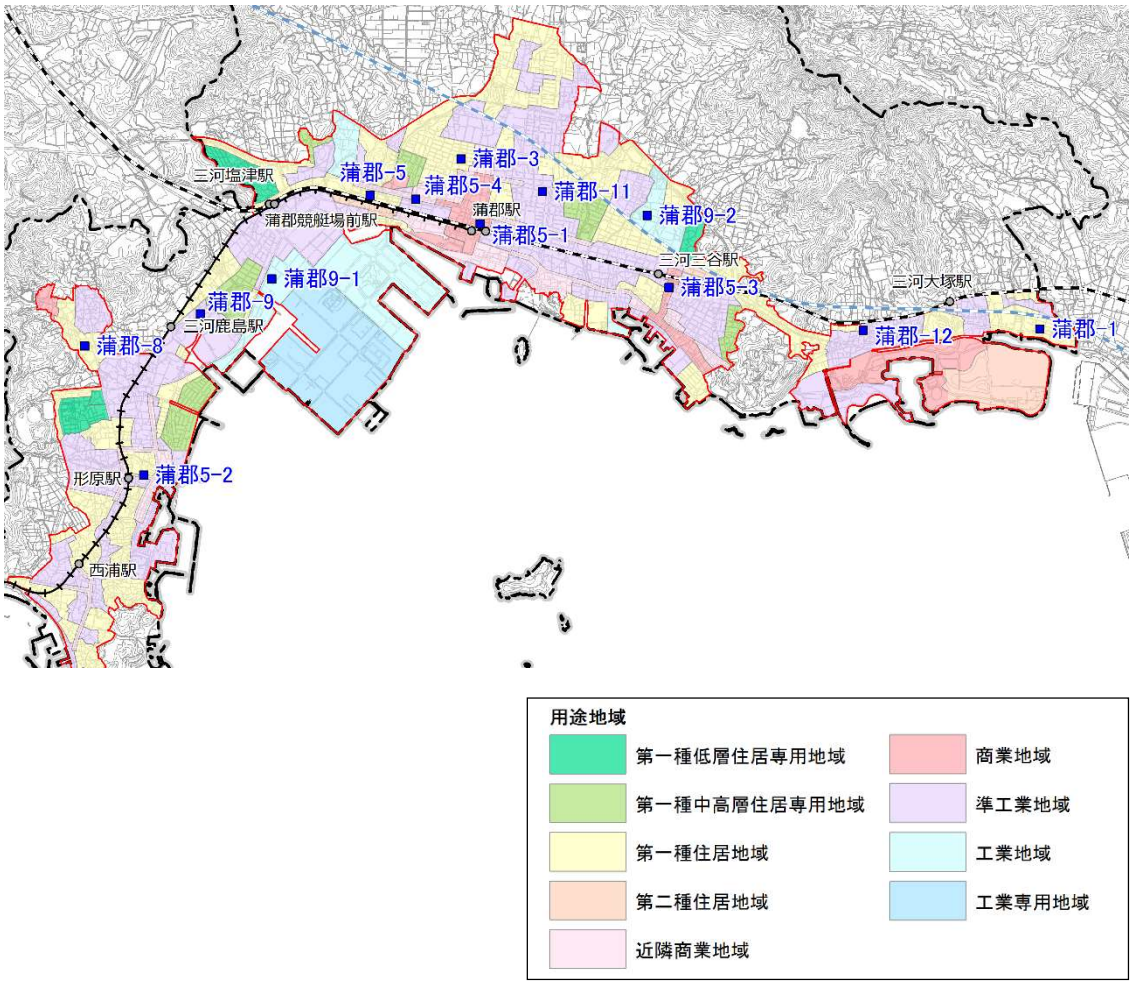


資料：地価公示


蒲郡9-1
（円/㎡）
200,000
150,000
100,000
50,000
0
H 9
H14
H19
H24
H29
R3
蒲郡9-2
（円/㎡）
200,000
150,000
100,000
50,000
0
H 9
H14
H19
H24
H29
R3
蒲郡5-1
（円/㎡）
400,000
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
H 9
H14
H19
H24
H29
R3
蒲郡5-2
（円/㎡）
400,000
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
H 9
H14
H19
H24
H29
R3
蒲郡5-3
（円/㎡）
400,000
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
H 9
H14
H19
H24
H29
R3
蒲郡5-4
（円/㎡）
400,000
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
H 9
H14
H19
H24
H29
R3

資料：地価公示

○地価公示調査箇所位置図



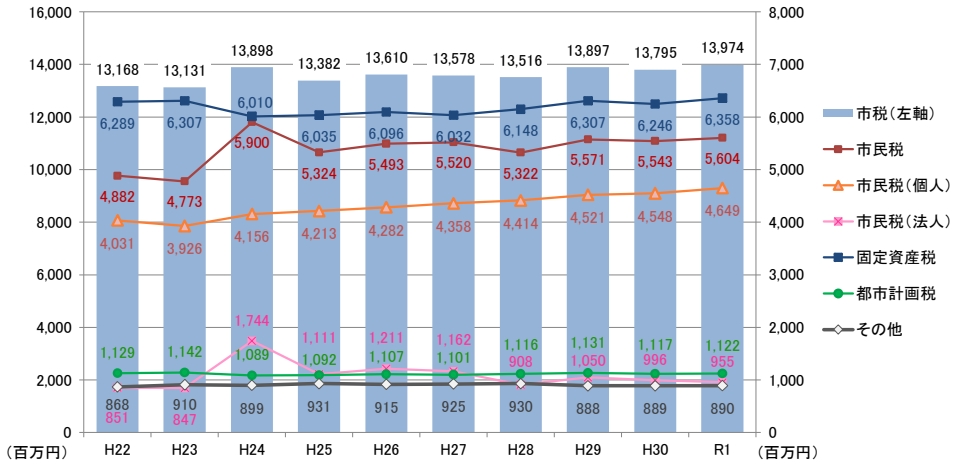
資料：地価公示

２－４ 財政

（１） 歳入（市税の推移）

市民税が増加傾向であり、市税は微増傾向です。

■地方税の推移

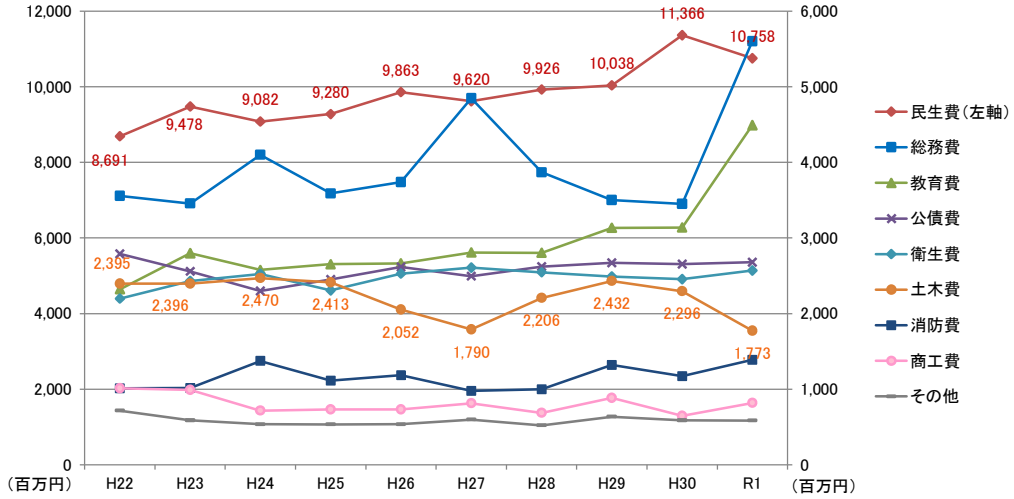


資料：広報がまごおり

（２） 歳出

目的別歳出の推移を見ると、高齢者福祉などが対象となる民生費が増加傾向です。一方で、都市基盤などの維持・更新・整備などに必要な土木費は減少傾向です。

■目的別歳出の推移



資料：広報がまごおり